

演 習 の 目 次

青 木 …… 1	天 谷 …… 3	井 上 …… 5	海 野 …… 6
岡 田 …… 8	緒 方 …… 10	沖 …… 12	加 藤 …… 13
塩 谷 …… 15	繁 本 …… 17	向 …… 19	高橋(明) …… 21
張 …… 23	趙 …… 25	西 成 …… 26	朴(恩) …… 28
朴(鏡) …… 30	原 …… 31	久 松 …… 33	福 村 …… 35
藤 原 …… 37	藤 村 …… 39	二 ツ 山 …… 41	古 川 …… 43
星 野 …… 45	松 岡 …… 47	水野(康) …… 49	宮 島 …… 51
宮 脇 …… 53	持 田 …… 55	姚 …… 57	安 井 …… 58
山 口 …… 60	山 崎 …… 62	山 ノ 内 …… 64	横 山 …… 66
渡 邊 …… 68			

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：323764) 演習(青木) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	人的資源管理論A・B	
	履修推奨科目	経営組織論A、社会政策A	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 この授業は、人的資源管理論・経営管理論を研究する。主な内容は以下の通りである。 ・人的資源管理・経営管理論に関する文献の輪読。 ・グループワーク。 ・地元企業へのフィールドワーク。			
授業の目的 この授業の目的は下記のとおりである。 ・人的資源管理論・経営管理論についての文献を輪読し、討論することを通じて専門知識を深める。 ・自分の関心領域にかかわる資料収集や文献研究を行い、論文作成のための知識と技術を習得する。 ・フィールドワークを通じて、現代企業の問題を社会科学的に理解する力を習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の到達目的は下記のとおりである。 ・人的資源管理論・経営管理論に関する専門知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応) ・とくにその中でも自分の関心領域を定め、それに関するより深い知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応) ・現代企業の実態を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようになる。(DPコード「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 平常点(出席、発言、参加姿勢)50%、報告(レジメ、卒論の中間報告)50%で評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。無断欠席は不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 面接による。面接では、卒論のテーマ、基礎的知識習得の程度、コミュニケーション力を総合的に判断して選考する。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業にかんする説明・課題設定 第2～7回 人的資源管理に関する文献の輪読 第8回 各人のテーマ設定 第9～13回 各人のテーマに即した論文の論評 第14～15回 フィールドワーク 第16回 オリエンテーション：第2学期の授業にかんする説明・課題設定 第17～21回 卒業論文テーマに関するプレゼンテーション 第22～28回 文献輪読または論文論評 第29～30回 グループワーク：ディベートまたはプレゼンテーション			
【授業および学習の方法】 この授業は対面で行います。しかし状況によっては、遠隔あるいはハイフレックスで行います。			
【自学学習のためのアドバイス】 第2～3回 授業中に指定する文献を用いて、事前に、企業の賃金制度改革についての事例を分析する。(10時間) 第4～7回 授業中に指定する文献を用いて、ホワイトカラーの人事評価の具体例を読み、授業で学んだ理論的枠組みを用いて分析を行う。(10時間) 第8回 事前に、卒論で取り上げるテーマについてまとめる。(10時間) 第9～13回 授業中に指定する文献を用いて、各人の卒論テーマに即した領域の基礎知識を得る。(20時間) 第14～15回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(10時間) 第17～19回 卒論のテーマに関する必要文献リストの作成を行う。(10時間) 第20～21回 事前に、卒論の中間報告のための準備を行う。(10時間) 第22～25回 先行研究の分析を行う。(10時間) 第26～28回 先行研究を整理したうえで、卒論のオリジナリティーに関して構想する。(10時間) 第29～30回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(20時間)			

教科書・参考書等

受講生と相談の上、指定する。

オフィスアワー 月曜日三時限目

事前にメールで予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

●個別演習選考基準

演習の成績、卒業論文の計画内容によって判断する。

●個別演習単位認定方法

平常点（出席、発言、参加姿勢）50%、報告（レジメ、卒論の中間報告）50%で評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。

●卒業論文の評価基準

- ・人的資源管理に関する意義ある研究課題を設定している。
- ・先行研究を体系的に整理し、その意義と限界を明確にしている。
- ・評価にはルーブリック評価表を用いる。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313723) 演習 (天谷) Seminar ミクロ経済学・ゲーム理論とその応用	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 ミクロ経済学およびゲーム理論の手法を習得し、それを用いて現実の経済・社会問題を分析できる力をつけることを目指します。 人間の行動原理と、人々の間の相互作用や駆け引きについて考察するのが「ミクロ経済学・ゲーム理論」という学問です。従って、ミクロ・ゲームの考え方を身につけることで、市場取引や経済政策といった標準的な経済学の問題はもとより、経営戦略・組織・交渉・制度設計・外交戦略など、様々な社会の事象への理解を深めることができます。 ミクロ・ゲームの思考法を習得することで、複雑な社会の問題の背後にある本質を自分の頭で紐解いて理解する快感を得るとともに、自分が社会で生きて行く上での大事な指針を手にすることができるでしょう。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、問題演習、教員や学生が提起する問題のディスカッション、グループや個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨いて行きます。			
授業の目的 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、また市場においていかなる資源配分が実現されるか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解するとともに、経済政策や企業組織、経営戦略、地域活性化にかかわる現実の問題を自ら発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いて分析できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ経済学とゲーム理論の基礎概念を理解し、それらをどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。 ・ 経済政策や企業組織、経営戦略、地域活性化にかかわる現実の問題を自ら発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いた簡単なモデルを作って分析し、説明することができる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 出席、ゼミでの報告・発言、課題レポート、学年末に提出のゼミ論文 (最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む) を総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考基準 <p>以下の観点から選考を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の基礎を習得しているか (もしくはこれからしっかり学習する意思があるか) 2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか 3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか 4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか 5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか 6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか <p>エッセイ (2000字程度) と成績表を提出すること。エッセイの内容は何でも良い (例: このゼミの志望理由、関心のある経済問題、学生生活の中で興味を持って取り組んでいることなど) が、上記の選考基準を念頭に、自己アピールすること。提出物と面接により選考を行う。</p> <p>提出物の期限は選考 (面接) 日である。詳しい提出要領は研究室まわりの際に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法 <p>年間の演習のうち、おおよそ5割をテキストの講読および問題演習、3割を研究方法のトレーニングおよび学生による研究発表とする。残り2割は履修者と相談の上、上級の文献講読、プロジェクト研究等にあてる。</p> <p>発表担当でない回でも、テキストを精読して予習をし、自分の考え、疑問点などを整理したうえで出席することが求められる。また、上記のゼミ論文、卒業論文以外にも、学習内容を確認するためのレポートを適宜課すことがある。</p> <p>ゼミは、グループでの勉強の場である。自分自身が学習意欲を持つのはもちろんのこと、他のメンバーの勉学にも協力・貢献する姿勢が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性があります。 			

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。以下は候補のいくつかである。

1. 丸山雅祥『経営の経済学』（第3版）有斐閣、2017年、3000円＋税
2. 伊藤秀史・小林創・宮原泰之『組織の経済学』（第2版）有斐閣、2019年、3200円＋税
3. 坂井豊貴『マーケットデザイン入門』ミネルヴァ書房、2010年、3000円＋税
4. ギルボア『意思決定理論入門』NTT出版、2012年、2800円＋税

オフィスアワー 月曜日4校時。天谷研究室（南7号館3階）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・令和5年度個別演習選考基準

本演習修了者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れる。他演習修了者については、上記演習選考基準に準ずる。

・令和5年度個別演習単位認定方法

上記演習単位認定方法と同様。ただし、「ゼミ論文」ではなく「卒業論文」。

・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

経済理論の手法を用いて、自分の設定したテーマについて分析を行い、論文にする。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視する。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しない。

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323747) 演習 (井上善) Seminar 利潤計算原理に関する研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	会計学総論, 財務会計論, 監査論	
	履修推奨科目	会計学総論, 財務会計論, 監査論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 会計学の分野において古典と称される書物を輪読することを通して, 期間損益計算 (利潤計算) の基本的な原理を理解させる。			
授業の目的 企業会計における期間損益計算 (利潤計算) の基本的原理を会得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
企業会計における期間損益計算 (利潤計算) の基本的原理を会得することができる (知識・理解/問題解決・課題探求能力)。			
成績評価の方法と基準 演習における報告, 討論への参加等を総合的に勘案して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 インTRODダクション (1) ～複式簿記とは～ 第2回 インTRODダクション (2) ～利潤計算方法としての財産法と損益法～ 第3回 現金主義会計と発生主義会計 第4回 棚卸資産会計 第5回 固定資産と減価償却 第6回 「利潤計算原理」を読む (1) ～利潤計算におけるひとつの問題点～ 第7回 「利潤計算原理」を読む (2) ～簿記・会計における照合の経理～ 第8回 「利潤計算原理」を読む (3) ～企業会計における利潤の照合①～ 第9回 「利潤計算原理」を読む (4) ～企業会計における利潤の照合②～ 第10回 「利潤計算原理」を読む (5) ～利潤計算手続の顛倒～ 第11回 「利潤計算原理」を読む (6) ～利潤計算における二元性の歪曲～ 第12回 「利潤計算原理」を読む (7) ～財産法の構造①～ 第13回 「利潤計算原理」を読む (8) ～財産法の構造②～ 第14回 「利潤計算原理」を読む (9) ～損益法の構造①～ 第15回 「利潤計算原理」を読む (10) ～損益法の構造②～			
上記の授業計画については, 授業の進捗状況により変更することがある。			
教科書・参考書等 教科書: 岩田巖『利潤計算原理』同文館 (事前に購入する必要はない)。 参考書: 随時紹介する。			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 詳細は初回の授業で説明するが, 相応の予習復習が求められる。簿記入門をすでに履修しているか, それと同程度 (初級程度の簿記) の知識を有していることが望ましい。なお, 講義は対面授業として実施する。欠席する場合には, 事前 (もしくは事後) に連絡すること。無断欠席に対しては厳正に対処する。本を読むことが好きな方を望む。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313726) 演習 (海野) Seminar 中小企業と金融機関の経済分析	科目区分 必修科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 マクロ経済学I・II、ミクロ経済学I・II、金融論I・II、金融政策I・II、統計学、計量経済学、中小企業論、組織論、イノベーション論		
	履修推奨科目 マクロ経済学I・II、ミクロ経済学I・II、金融論I・II、金融政策I・II、統計学、計量経済学、中小企業論、組織論、イノベーション論		
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 演習では、共通のテキストを輪読して、歴史的な日本経済の実態について学びながら、中小企業と金融機関がどのような経済活動を行ってきたのかを学び、どのような意図で(理論的背景があつて)その活動が実行されたのか、結果的に両者はどうなったのか、それによって日本経済はどのような影響を受けたのか、等を議論します。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、教員や学生が提起する問題のディスカッション、学生個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨きます。			
授業の目的 この演習の目的は、戦後日本の経済・社会の出来事を学ぶことを通して、日本経済の現在について理解と思考を深めることにあります。その中で、中小企業と金融機関という経済主体の変化の歴史に焦点をあてます。それぞれの歴史と現在、両者の関係の歴史と現在を網羅的に学びます。また、現在の中小企業と金融機関が抱える課題に焦点を当て、経済分析を行うことで、具体的な方策に関する考えを持つようになります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
*戦後の日本経済を理解し、現在の経済に興味を持つようになる *経済現象を説明できる経済学の理論に興味を持ち、理解し、応用できるようになる *日本経済の課題に対する対処法をたてて(仮説を立てて)、分析・検証できるようになる *世の中は、自分の知らないことばかりであることを実感する			
成績評価の方法と基準 成績評価のポイント >通常回の出席 >ゼミへの貢献(報告・発言、臨時・研修等への参加度) >課題レポート >学年末に提出の個人研究論文(最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む)			
を総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】 【選考基準】 以下の観点から選考を行う。 ===== ===面接時にどれくらいシラバスを読んで理解しているかを質問します=== ===== <ゼミ生に望むこと> 1. 謙虚で、誠実にゼミに参加できるか 2. 学ぶこと、考えることに意欲があるか 3. 自主的・主体的にゼミに参加・運営できるか 4. 笑うこと・笑かすことが好きか 5. 金融政策の講義を必ず受講する			
【提出物】 面接時まで以下に提出物【レジュメ】をメールで送付すること			

【レジュメ】

[1]自己紹介、[2]このゼミを志望する動機・理由、[3]ゼミに入ったら貢献できること、を記述すること（文字数自由ですが、気持ちを伝えてください）。

提出物：ワードで作成し、メール添付

提出期限：4月4日14時00分（面接を受ける直前まで）

提出先：umino.shingo@kagawa-u.ac.jp

メール表題に「2021年度ゼミ希望 ○○自分の名前○○」と明記すること。

必ず常に連絡が取れるアドレスでメールを送ること

面接は、提出物を元に行います。※変更があれば、連絡します。

【授業計画並びに授業及び学習の方法】

毎回の演習の冒頭で、皆さんのアイドリングを兼ねて3人にその週に興味を引いたニュースを日本経済新聞からチョイスしてもらって、フラッシュ・トーク（3分、スライド2枚まで）をしてもらいます（交替制）。これを行う理由は

- (1) 現実社会で起こっていることを知る。
- (2) ニュースに触れる習慣をつけてもらいたい
- (3) 卒業研究の題材探しを兼ねている
- (4) 人前で話すことに慣れてもらいたい

からです。詳細については第1回の講義の時にでも説明します。

以下に講義計画を挙げます。なお、受講者人数や進行状況により、一部内容を変更する場合があります。

第1回：ガイダンス（1）（自己紹介、担当決めなど）

第2回：ガイダンス（2）（発表の仕方、レジュメの作成について）&懇親会？

第3～15回：ゼミ生によるテキスト担当箇所の発表と議論・グループ研究の進行

第16回：ガイダンス（夏休み期間中に始動するグループ研究の進め方について）

第17～30回：【前半】ゼミ生によるテキスト担当箇所の発表と議論、【後半】グループ研究に関する学生による発表と議論

後期（2学期）に、地元企業の訪問や経営者との懇談会を開催します。また、東京研修（1泊2日、東京証券取引所や日本銀行、金融機関、企業）や他大学との交流試合、の可能性を検討しています。

【自学自習に関するアドバイス】

- ・報告者は、自分が担当箇所を一番よく知っている・分かっている状態で望んでください
- ・報告者は、報告の際、スライドやレジュメを作成してもらいます。自分以外の仲間に分かってもらうには、どう説明すればいいだろう？と常に考えながら準備をしてみてください。迷ったら、遠慮なく海野に相談してください
- ・報告者以外の学生は、お休みの時間ではありません。自分でも次回の範囲を通読し、報告者に質問したいこと、みんなと議論したいことを考えておいてください。

教科書・参考書等 講義で指示します

オフィスアワー 【<https://shingo-umino.youcanbook.me>】から予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【メッセージ】

是非とも、演習（ゼミ）は、会社だと考えてください。皆さんは社員です。教員・海野が社長として威張るつもりは全くありません。海野も学生の皆さんと一緒にゼミ（会社）を大切に、盛り上げたいと思っています。皆さんは、自ら希望して、教員の需要とマッチして、入社します。2年間、責任を持って参加・貢献できるゼミ（会社）を選択してください。

【注意】

通常時間外の学生同士のゼミ活動（打ち合わせ・議論）を行う可能性は十分にあります。時間を確保できる人を望みます。

・2023年度個別演習選考基準

本演習修了者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れます。他演習修了者については、上記演習選考基準に準じます。

・2023年度個別演習単位認定方法

上記演習単位認定方法と同様。ただし、「ゼミ論文」ではなく「卒業論文」。

・2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

経済に関連する自分の設定したテーマについて定量・定性分析を行い、論文にしてもらいます。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視します。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しません。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313721) 演習 (岡田) Seminar 経済政策の実証研究	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策, アメリカ経済論	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習 (事前学修 90時間 + 事後学修 30時間)			
授業の概要 アクティブラーニング型演習である。経済政策に関わる文献の事前学修に基づき、グループワークによる対話と発表を行なう。 前期は、政策研究に関する基礎的な文献を輪読する。後期は、夏休みの課題レポートを基に、ゼミ生による発表と討論を行なうほか、やや専門性を高めた政策研究に関する文献を輪読し討論を行ない、次年度の卒業論文の作成に備える。 なお、正規の演習時間枠90分を超えた活動（フィールドワーク、高大接続授業、夏休みの研修旅行等）も多いので心積りとしておくこと。			
授業の目的 経済政策に関わるさまざまなトピックを深く理解することを目的とする。財政政策、金融政策、雇用政策、社会政策、地域政策、振興政策、環境政策、対外経済政策などの諸政策について、学生諸君が、その歴史と現状の把握、及び海外の諸制度との比較をできるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策に関わる諸制度の現状について説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 2. 経済政策に関わる諸制度の歴史的な発展とその変遷について説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 3. 経済政策に関わる諸制度について、日本と海外の事例を比較し説明できる。(c: 問題解決・課題探求能力, b: 知識・理解) 4. 経済政策に関わる諸制度の問題点を明らかにし、解決策を提案できる。(c: 問題解決・課題探求能力, d: 倫理観・社会的責任)			
成績評価の方法と基準 報告担当時の報告内容 (40点), 出席状況 (30点), 課題レポート (30点) の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・選考基準 1. 研究意欲があるかどうか。 2. 時間外を含めたゼミ活動全般に参加する意志があるかどうか。 3. 1, 2年次の成績 (単位修得数)。			
・授業計画並びに授業及び学習の方法 アクティブラーニング (能動的学修) によるグループワークを基本とする。			
第1回 ガイダンスとチェックイン。 第2回～第15回 『ゼロからはじめる経済入門』を使った学修に続き、SGCIME編『現代経済の解説 (第3版)』を輪読する。 第16回～第22回 後期テキストの輪読1。 第23回～第24回 ゼミ生による夏休みの課題発表と討論。 第25回～第29回 後期テキストの輪読2。 第30回 4年生の卒論発表会への参加とコメントを求める。チェックアウト。			
テキストの輪読にあたっては、各回に報告担当者を決める。			
事前準備として、報告担当者は、テキストの内容に即した「レジュメ」を作成したうえで、参加者の質問に答えられるよう下調べを行ない、演習に臨まなければならない。他の参加者は、テキストの該当範囲を熟読し、分からなかった単語・単純な疑問と、話し合うに値する問題点・論点のそれぞれを「発見カード」に整理し、ゼミ前日までに提出しなければならない。			

当日は、報告者論点と、発見カードに基づいて、3～5人のグループで対話する。司会と書記を交互に担当すること。対話の終了後、書記が、ゼミ全体に向けて発表を行なう。司会が、他グループの発表に質問やコメントを寄せる。指導教員による助言と、報告担当者の総括コメントでゼミを締めくくる。

教科書・参考書等

最初のテキスト：

『ゼロからはじめる経済入門』有斐閣コンパクト，2019年，2300円．大学生協等で購入を済ませて、初回の演習に持参すること。

通年で必要となる経済辞典として：

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版を必携とする。大学生協等で購入して、第2回以降の演習に毎回持参すること。

2つ目のテキストとして、SGCIME編『現代経済の解説（第3版）』御茶ノ水書房，2017年，2500円を指定する。後期には、既刊の良書を選択する。2つ目以降のテキストは、ゼミ全体で共同購入するので、生協や一般書店等で購入してはならない。

オフィスアワー 火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・2023年度個別演習選考基準

本演習の修了者： 演習の成績による。

他の演習の修了者： 自コースのコース専門科目20単位を既に修得している事を前提とし、面接のうえ可否を決定する。

・2023年度個別演習単位認定方法

報告担当時の報告内容（40点），出席状況（30点），卒業論文（準備論文を含む）（30点）の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。

・2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

20000 字以上の論文でなければならない。作成要領の詳細は個別演習の中で指示する。単位認定にあたっては、自らの新しい見解・論点（独創性）が盛り込まれていることを要件とする。必ず、卒業論文指導を受ける事。

ナンバリングコード B4SCL-bacE-20-LE4 授業科目名 (時間割コード: 333776) 演習 (緒方) Seminar 文化人類学演習 Seminar in Cultural Anthropology	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 LE	単位数 4	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学 社会調査法	
	履修推奨科目	文化人類学 社会調査法	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
<p>授業の概要</p> <p>文化人類学は、地球上の諸民族の文化・社会を比較研究する学問です。この演習では、政治、経済、宗教と文化、グローバル化など、現代社会を理解する上で不可欠なテーマについて、人類学の文脈の中でいかに探求されてきたのか、その研究蓄積と隣接する社会学的及び経済学的観点から学びます。</p> <p>具体的には、前期では、文化人類学の専門基本文献の講読を通じて、初めに（Ⅰ）文化人類学の理論と方法論について学び、次いで（Ⅱ）資料を収集し分析する手法と（Ⅲ）発表と議論の技能を習得する。（Ⅳ）卒業論文の執筆に向けて、研究テーマを探す。</p> <p>夏休みの時期には、卒業論文の個人研究に向けて、文献研究・フィールドワークを進める。</p> <p>後期では、自分の研究テーマについての構想を具体化していき、レポートは全員に配布しあい、授業で発表を行い、卒論執筆につなげるものとする。演習終了時にはリサーチ・プロポーザル（研究計画書）を必ず完成させる。</p> <p>文化人類学の特徴的な研究方法として、研究対象である地域に実際に滞在し、その文化・社会に自ら参与して観察するフィールドワークという手法がある。卒業論文は、必ずしもフィールドワークを実施する必要（必須）はないが、文化人類学または社会学、民俗学の視点・理論・方法論で考察した研究に限定する。卒論の研究テーマは、次のような研究領域がある。</p> <p>①呪術・宗教・儀礼的諸実践、民間信仰（宗教人類学領域）、②政治参加と政治文化（政治人類学領域）、③人間社会における「economy」の本義・本源的意味を問い直す経済人類学領域、④香川県ほか日本国内の民俗社会研究（社会学及び日本民俗学領域）、⑤そのほか（アニメ研究、ジェンダーと家族観、開発と文化変容、自然環境と文化、建築文化（風水・家相）、食文化（郷土料理）等）などがある。⑥人間と動物の関係性に関する人類学的考察：共存や環境問題、動物の生態や保護活動、動物信仰などがある。</p> <p>またゼミ生の出身県や生まれた場所、育った場所に関する民俗・習慣、社会現象についてこれまで未調査であり、人類学的研究にとって新たな民族誌的貢献となるような研究テーマについては、大いに歓迎する。</p> <p>2022年3月卒業：ゼミ生の卒論題目 若者の被服の消費行動に関する経済人類学的研究 —香川大学の事例を中心に—</p> <p>新興サッカークラブによる地域活性化に関する文化人類学的研究 —FC今治のサポーター形成から—</p> <p>地方のお笑いに関する文化人類学的研究 —香川県住みます芸人梶剛さんの事例を中心に—</p> <p>アニメ聖地巡礼と観光・地域振興に関する文化人類学的研究 —小豆島『からかい上手の高木さん』の事例を中心に—</p> <p>日本人若者の台湾観光イメージに関する観光人類学的研究 —台湾台中市の地域活性化の事例から—</p> <p>男子大学生の持つ理想の男性像の文化人類学的研究 —香川大学生を対象とした調査と研究—</p> <p>現代における朝市の役割に関する文化人類学的研究 —岡山県備前岡山京橋朝市の事例から—</p> <p>サッカーを紹介する地域意識に関する文化人類学的研究 —ファジアーノ岡山の事例から—</p> <p>さぬきうどんの歴史と変遷に関する研究 —香川大学生のうどんの消費動向に着目して—</p>			

授業の目的 この演習では、文化人類学の研究蓄積にもとづき、人間を他の動物から区別する基本的要件である「文化」の本質について考えることを目的とする。輪読および個人研究を通じて、資料検索と現地調査の方法・実践、効果的なレジュメとパワーポイントの作成・使用、議論・討論のスキルなど、卒業論文の執筆に必要な能力を身につける。	
到達目標	学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 文化人類学の基本的考え方や基礎知識を修得し説明できるとともに、経済人類学的視点から市場経済や現代社会のあり方について考え、議論できるようになる。 2. 近代西洋社会、資本制経済社会の文化を絶対視せずに、個別文化の数ある選択肢の一つとして捉える柔軟な思考ができる。 3. 将来、公務員、国内外の企業（国際部門）、公益法人（JICAなど）、新聞社などのメディアなどに勤めるときにグローバル化時代の人類学的な考えを持ち、地域社会を牽引できる能力と知識を身につける。 4. 複雑化・多様化する世界と地域の課題に挑戦し、解決する高い専門能力や多文化社会で生きる力を身につけることを目指す。	
成績評価の方法と基準 出席、報告・発信、課題レポート、演習終了時に提出するリサーチ・プロポーザル（研究計画書）、ゼミでの貢献などを総合的に評価する。	
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本年度は、前期に文化人類学に関する専門文献の講読を柱とし、以下の手順で演習を進めていく予定である。	
(1) 専門文献の講読（分担発表、ハンドアウトやPPT等の口頭発表資料の作成方法、コメントの技法）。 (2) 対象文献の視点・理論・方法についての議論と総括（何をどのように理解したのか）。 (3) 各自の問題関心の発掘（上記(1)(2)を手がかりに）。 (4) 「その問題関心の解明に文献講読で得た理論や方法を実際に援用すれば・・・」あるいは「講読文献の欠点を補うとすれば・・・」という前提で、具体的にシミュレーションを試みる。 (5) 「問題関心」を「研究テーマ」に仕立てる（research design）。	
【自学自習に関するアドバイス】 受動的な学習ではなく、学んだ理論や方法を使い、自分で「発信」することを常に念頭に置きながらこの文化人類学演習には臨んでほしい。	
【ゼミ生選考基準】 文化人類学演習を希望する履修者は、教員との面接結果によって後日決定する。	
★選考におけるチェックポイント★ ・演習を通じて自分を成長させようとする意欲と学問に対する真摯さ、学ぶ意識を有していること。 ・文化人類学または社会学、日本民俗学、またはある地域の文化や社会現象について関心があること。 ・社会に出ても恥ずかしくないマナーとエチケット、そして常識と社交性を有していること。 ・慣れ親しんだ見方や考えから脱却して、活きた現実を捉え直すこと、その現実に即して新しく考えを展開することができること。 ・調査者である自己と調査対象者である他者との間に生まれるラポール関係（信頼関係）を大事にしながら、卒論研究について誠意をもって取り組むことができること。	
教科書・参考書等 小田博志2010年『エスノグラフィー入門〈現場〉を質的研究する』春秋社3240円。 大学生協や書店、アマゾン等で各自購入すること。	
オフィスアワー 水曜日14時から16時南キャンパス2号館3階。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ゼミの無断欠席は許されない。90分の演習時間の背後には、その何倍もの発表者の準備活動と努力がある。ゼミ生の積極性と各自の真摯な取り組みを期待する。	
【個別演習選考基準】 ・演習への取り組み状況及び研究計画により選考する。	
【個別演習単位認定方法】 ・卒業研究の進捗状況に応じて単位認定する。	
【卒業論文の作成要領と単位認定方針】 ・文化人類学、社会学、日本民俗学の分野におけるテーマ設定であること。 ・先行研究のパラダイムを把握しており、かつ論文に独創性と実証性、論理性があること。	

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313711) 演習 (沖) Seminar 資本主義の歴史・思想・現在	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 演習90分×30回＋自学自習 (準備学習 120時間)			
授業の概要 資本主義とは、市場を中心とした経済システムである。このような経済システムは普遍的なものではなく、資本主義以前には、市場は社会の付属物にすぎなかった。資本主義は、歴史上のある時点で成立した特殊な経済システムなのである。このゼミでは、資本主義の特殊歴史性について、歴史・思想・現在という3つの側面から考察していきます。			
授業の目的 資本主義について多角的に考察することで、現代社会の本質や構造に対する高度な理解力を養います。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 資本主義の思想的背景と歴史的経緯について説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 学術的文章を正確に理解することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 他人の意見を批判的に吟味することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 現代社会の抱える諸問題に対し学術的観点からアプローチすることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
選考基準： 面接により決定します。面接では、これまでの履修状況と、演習に積極的に取り組む意欲があるかどうかを主な判断基準とします。面接の際は最新の成績表を用意してください。			
授業計画： 前期は、資本主義の歴史・思想・現在に関する入門書・概説書を輪読します。後期は、同じテーマに関する専門書を輪読する予定です。			
授業の方法： この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
自学自習： 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします (5時間程度)。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します (2時間程度)。			
教科書・参考書等 ユルゲン・コッカ『資本主義の歴史』(人文書院) イシュトファン・ホント『商業社会の政治学』(昭和堂) イマニユエル・ウォーラーズテインほか『資本主義に未来はあるか』(唯学書房)			
オフィスアワー 初回時に指定します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 2023年度個別演習選考基準： 前年度演習の履修状況から判断します。			
2023年度個別演習単位認定方法： 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。			
2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針： 受講者には執筆要綱を配布します。認定の基準は、展開が論理的であるか、先行研究への言及があるか、学術論文としての体裁が整っているか、などです。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：313722) 演習 (加藤) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論、社会政策、財政学、経済政策	
	履修推奨科目	福祉経済論、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 日本は第2次世界大戦後、皆年金・皆保険を中心に据えた社会保障システムを構築し、国の財政を通じた地域間再分配なども行いながら、日本型の福祉国家システムを形成してきました。しかし、少子高齢化や人口減少、グローバルな国際競争の激化といった21世紀的な条件の下で、この20世紀後半に構築されたシステムの再編が避けがたくなっています。 本演習では、21世紀の日本における福祉国家システムと社会保障制度を検討するために必要な、基礎知識と論理的思考力の習得を目指します。 授業はゼミ生の報告と議論を中心としながら、指定テキストの輪読と関連資料の検討・分析を行います。 そして、正規の授業時間外に3・4年生合同の研究報告会や、他大学との合同ゼミ等を行う予定です。			
授業の目的 日本では少子高齢化・人口減少が進行する中で、年金・医療・介護の社会保険や子育て支援などの政策の重要性が増しています。しかしそれと同時に、20世紀型の福祉国家システムを21世紀の経済社会環境に適したものと改変していくことも必要となっています。 本演習では、受講生がこのような社会的課題を多角的に検討する力を培うために、社会保障分野に関する理念やシステムの基本構造を理解し、論理的に検討する力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。そして、専門的な文献や資料を読解するために必要な知識の習得と、報告やレポートとしてまとめる力を身につけます(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。また、報告・議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上を目指します(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の福祉国家システムの特徴を説明できる。 (2) 日本の経済社会の構造変化と社会保障システムの再編圧力について、論理的に説明できる。 (3) テキスト等の内容をレジュメにまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (4) 他者の報告・発言の内容をきちんと理解し、それに対して質問や自らの意見を述べるができる。 (5) 専門的な文献や資料を利用しながら、報告やレポートをまとめることができる。			
成績評価の方法と基準 (1) 出席・発言・参加姿勢40%、報告・宿題・レポート60% (2) 無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性があります。 (3) 出席だけしていても、授業への参加意欲がない場合は評価しません。 (4) 評価にはルーブリック評価表を用います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・選考基準 (1) 日本の福祉国家システム、社会保障に関する関心の強さ・問題意識 (2) 演習に積極的に取り組む意欲(学習面、コミュニケーション面) (3) 主体性、協調性、責任感 【授業計画】 第1回：ガイダンス(自己紹介、役職の決定)、テキスト報告の担当決定 第2回：予備知識の学習 第3～12回：テキスト報告、グループワーク、関連資料の検討 第13回：研究報告会(対外ゼミ)の研究課題の設定、参考文献のサーベイ 第14回：参考文献のサーベイ・報告 第15回：参考文献のサーベイ・報告、夏休みの研究計画 ゼミ補講：中間報告会(ゼミ内)、			

第16～22回：研究報告会(対外ゼミ)に向けた学習・報告書の作成準備
対外ゼミ(開催日は未定)：研究報告会(遠隔方式もしくは対面方式)
第23回：研究報告会の振り返り、研究報告書の作成
第24回：研究報告書の作成
第25回：研究報告書の作成
第26回：研究報告書の作成、卒業論文の作成に向けた準備作業
冬休み：研究報告書の原稿完成、卒業論文のテーマ探し
第27・28回：卒業論文のテーマ・参考文献の報告、研究報告書の校正
第29回：卒業論文の研究計画の確認、研究報告書の校正
第30回：卒業論文の研究計画の確認

【授業及び学習の方法】

- (1) 授業は、ゼミ生の報告とディスカッションを中心に進めます。必要に応じて、講義やグループワーク等も行います。
- (2) 報告担当者は、報告レジュメを作成し、参加者全員に配布できるように準備してください。わからない言葉等は事前に調べてください。
- (3) 報告担当者以外の参加者にも、事前にテキストや資料に目を通し、授業時に質問・コメントができるように準備してもらいます。その事前準備を前提に、ゼミの時間にディスカッションを行います。
- (4) 夏休みや春休みなどに補講を行う予定です。実施時には、全員参加となります。
- (5) 他大学等と合同ゼミ(研究報告会)を行う予定です(遠隔方式か対面方式かは未定)。全員に必ず参加してもらいます。
- (6) 授業形態は、基本的に対面授業を行う予定です。状況によっては、授業を遠隔方式に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第3-12回：報告者は報告の準備を行う。報告者以外は、予習としてテキストを読み、授業内で議論するための論点を考えてくる。(20時間)
第13-15回：研究報告会に向けてテーマを設定し、参考文献(図書、論文、各種資料)を探して授業時に紹介できるように準備する。(6時間)
夏休み期間：対外ゼミに向けた学習。(42時間)
第16-22回：対外ゼミに向けた学習と報告書作成に向けた準備(20時間)
第23-26回：対外ゼミを振り返り、今後の研究のブラッシュアップに向けて論点整理する。報告書の作成。(10時間)
冬休み期間：卒業論文のテーマを考え、参考文献を探す。(12時間)
第27-30回：研究報告書の校正を行う。卒業論文のテーマについて、分析視点とテーマの概要、目次案、参考文献について紹介できるように準備する。(10時間)

教科書・参考書等

この講義では、教科書を使用して、ゼミ生に報告をしてもらいながら学習します。下の教科書を、第1回目の授業までに入手しておいてください。

教科書：塚谷文武・橋都由加子・長谷川千春・久本貴志・渋谷博史(2021)『福祉国家と地方財政-新版：地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み』学文社、2420円 (ISBN-13 : 978-4762030994)

オフィスアワー 木曜日 12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・無断欠席は厳禁です。
- ・積極性と主体性をもって参加してください。

【2023年度個別演習選考基準】

- ・演習における取り組み状況と卒業論文への意欲によって判断します。
 - ・他の演習の修了者については、本演習の選択理由、卒業論文のテーマ、意欲、成績と、面接によって判断します。
- なお、卒業論文のテーマが研究題目と関わりのない場合には、履修を断ることがあります。

【2023年度個別演習単位認定方法】

- ・卒業論文作成の進行状況、授業への参加姿勢によって判断します。

【2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

- ・字数は原則として20,000字以上。演習に関連するテーマを設定すること。
- ・分析視点、論理構成、先行研究及び資料・データ等の分析内容等から評価します。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323767) 演習(塩谷) Seminar 経営学の実証研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目	経営戦略論、経営組織論、イノベーション論、計量経済学 I / II、調査データ分析 I / II	
	履修推奨科目	計量経済学 I / II、調査データ分析 I / II	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(準備学習90時間＋事後学習60時間)			
<p>授業の概要</p> <p>本演習では、経営学における実証研究の方法を指導する。企業組織に関する研究を通じて科学的・論理的な思考能力を養うことを目標とする。</p> <p>演習内容は、以下のとおりである。</p> <p>①イノベーション・マネジメントについて解説した文献を輪読し、クラス討議を重ねることで専門知識と問題意識を深めていく。</p> <p>②統計的実証分析の作法について学ぶ。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>本演習では、経営学領域における研究の実行・論文執筆に必要なスキルを習得することを目指す。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<p>①イノベーション・マネジメントにおける基本的な考え方や概念を説明できる。</p> <p>②上記の考え方や概念を用いて現実の経営現象を説明できる。</p> <p>③検証したい仮説に対して適切な分析手法を選択できる。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート、宿題等の提出50% ・担当箇所の報告50%：報告に関する資料、プレゼンテーションの内容、プレゼンテーションに対するコメントの内容で評価する。 <p>評価にはルーブリック評価表を用いる。報告用資料はMicrosoft WordまたはPowerPointを使用すること。プレゼン中、板書してもよい。担当者は報告時、クラス全員分の資料を配布すること。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p> <p>【選考基準】 面接・履修状況によって選考する。</p> <p>なお、以下4点を満たすことができる学生を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本演習で取り扱う領域や研究方法に関心があること ②ゼミ活動に積極的に取り組めること ③ディスカッション等で他の学生と協働できること ④卒業研究において統計的実証分析を行う意欲があること <p>【授業計画】 この科目は全回対面授業を行う。</p> <p>第1学期</p> <p>第1回：イントロダクション、アイスブレイク</p> <p>第2回：長内ほか (2021) 第2章の輪読</p> <p>第3回：長内ほか (2021) 第3章の輪読</p> <p>第4回：長内ほか (2021) 第4章の輪読</p> <p>第5回：長内ほか (2021) 第5章の輪読</p> <p>第6回：長内ほか (2021) 第6章の輪読</p> <p>第7回：長内ほか (2021) 第7章の輪読</p> <p>第8回：長内ほか (2021) 第8章の輪読</p> <p>第9回：長内ほか (2021) 第9章の輪読</p> <p>第10回：長内ほか (2021) 第10章の輪読</p> <p>第11回：長内ほか (2021) 第11章の輪読</p> <p>第12回：長内ほか (2021) 第12章の輪読</p> <p>第13回：長内ほか (2021) 第13章の輪読</p> <p>第14回：総説（レビュー論文）を読んでみる</p> <p>第15回：原著論文を読んでみる</p>			

第2学期

- 第16回：久保（2021）第1章の輪読・データ分析演習
- 第17回：久保（2021）第2章の輪読・データ分析演習
- 第18回：久保（2021）第3章の輪読・データ分析演習
- 第19回：久保（2021）第4章の輪読・データ分析演習
- 第20回：久保（2021）第5章の輪読・データ分析演習
- 第21回：久保（2021）第6章の輪読・データ分析演習
- 第22回：久保（2021）第12章の輪読・データ分析演習
- 第23回：久保（2021）第13章の輪読・データ分析演習
- 第24回：久保（2021）第7章の輪読・データ分析演習
- 第25回：久保（2021）第8章の輪読・データ分析演習
- 第26回：久保（2021）第9章の輪読・データ分析演習
- 第27回：久保（2021）第10章の輪読・データ分析演習
- 第28回：久保（2021）第11章の輪読・データ分析演習
- 第29回：質問調査票の作成
- 第30回：卒業論文発表会の聴講

<予習>

教科書の該当箇所を読む。（第1学期・第2学期共通）

教科書章末問題の解答を作成しておく。出来るところまで良い。（後期）

<講義中>

- ①受講生による教科書のレクチャー、教員による講評、補足
- ②演習：教科書章末問題の解答をグループでまとめ、発表する
- ③前期は受講生によるプレゼンテーション（テーマは受講生が選択）も実施する。

<復習>

教科書の該当箇所をもう一度読むこと。

教科書章末問題の解答をブラッシュ・アップすること。

教科書・参考書等

教科書

・第1学期

長内ほか（2021）『イノベーション・マネジメント』中央経済社2,640円（税込み）

・第2学期

久保克行（2021）『経営学のための統計学・データ分析』東洋経済新報社2,420円（税込み）

参考書

入山章栄（2019）『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社3,190円（税込み）

山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学：正しい手法と結果の読み方』中央経済社円2,860（税込み）

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

研究室：南7号館2階2-10

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【令和5年度個別演習選考基準】

- ・本演習の受講者は演習の取り組み状況と研究計画書により選考する。
- ・新規参加希望者は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。

【令和5年度個別演習単位認定方法】

- ・卒業研究および個別演習の活動状況により単位認定する。
- 評価にはルーブリック評価表を用いる。

【令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

下記の要件を満たしている場合に卒業論文としての提出を許可し、その内容に応じて評価する。

- ・企業経営に関する研究テーマが選択されていること
 - ・研究論文作成の様式に則っていること
 - ・先行研究を整理し、学術的・実践的意義を有するもの
 - ・執筆者自身が作成したデータセットを用いた統計的実証分析を行っていること
- データのタイプは、アーカイバルデータ、質問票調査データどちらでもかまわない。評価にはルーブリック評価表を用いる。

【その他】

- ・第1学期は、経営現象を分析するための経済学的な思考方法を学びます。輪読する教科書では数式は出てこないが、経済学的な思考方法をフォーマルに学びたい学生は「マイクロ経済学Ⅰ」「マイクロ経済学Ⅱ」「上級マイクロ経済学」を履修すること。
- ・回帰分析の理論をきちんと学びたい学生は「計量経済学Ⅰ」「計量経済学Ⅱ」を履修すること。
- ・卒業論文で質問票調査を実施することを希望している学生は「調査データ分析Ⅰ」「調査データ分析Ⅱ」を履修すること。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323751) 演習 (繁本) Seminar 財務会計研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	財務会計論A、財務会計論B、会計学総論、 株式会社会計、簿記入門、監査論	
	履修推奨科目	株式会社会計、監査論	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習 (予習60時間＋復習60時間) ＋長期休暇中の課題への取り組み			
授業の概要 【キーワード：財務会計】 本演習では様々な会計基準および財務会計の基礎理論を、受講者間のディスカッションを通じて教授します。 なお、誤解されがちなのですが、会計学＝簿記ではありません。簿記が分かっていると会計学を理解しやすいのは確かです。しかし、それと会計学を分かっていることは別物です。逆に簿記の理解がまいちでも、会計学をある程度理解することは可能です。ただ、会計学を十分に理解するためには、簿記をある程度理解していることが望まれます。さらに付け加えると、会計基準＝会計理論ではありません。この点はゼミを通じて学んでください。			
授業の目的 受講生が会計基準および財務会計の基礎理論を十分に理解した上で、習得した知識を課題発見・解決に活用し、自分の考えを的確に他人に伝達する力を身につけることが、本演習の目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計の基礎概念や理論を言葉や文章で的確に説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 ・会計の知識やその他の情報を活用できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 ・ディスカッションで積極的に発言できる (DPの「言語運用能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 報告の質、ディスカッションへの参加、課題や自学自習の取組、ゼミ運営への貢献等を総合的に勘案して評価します。高い成績評価を得るためには、積極的なディスカッション参加が特に重要です。毎回の出席は必須条件。合理的な理由を事前に直接教員に連絡しない欠席・遅刻・早退は成績評価を著しく下げるとともに、個別演習の受入れ謝絶につながります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 面接によって選考します。1次選考、2次選考とも、面接時に志望理由書 (Word等を用いて800字くらい。本ゼミを希望する理由と将来の希望進路を文章で記述) と最新の成績表 (コピー可) を持参してください。斡旋受入者には別途指示します。 面接では次の点を重点的に確認します。 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学修姿勢 ・協調性とコミュニケーション能力 ・授業について来られるだけの基礎知識 (※) ※3年次配当のゼミでは2年生までの学修がベースとなる内容を扱うため、2年生レベルの会計知識 (会計学総論または財務会計論Aの単位取得済み程度) がないと辛いかもしれません。			
なお、選考基準とは直接関係しませんが、本ゼミは以下のような人に向いています。 <ul style="list-style-type: none"> ・会計学や簿記が楽しいと思える人 ・会計や金融に関係する職業、職種を志望している人 ・学問知と実践知の両方に関心がある人 逆に、課外活動やバイトを最優先したい人、会計以外の勉強に注力したい人、演習の単位を「効率的に」取りたい人などには、本ゼミはあまりお勧めできません。			
【授業計画及び授業の方法】 (1) 前期 <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式でテキストを精読します。場合によっては授業時間のほとんどをディスカッションに費やす方法とする可能性もあります。 ・卒論執筆の準備運動として夏休みに5,000字程度のレポートを課す予定です。 			

(2) 後期

- ・国際会計基準の設定に関わった方の簡単なエッセイ（日本語）を読んで財務会計の最新潮流に触れます。その後、卒論執筆を意識して、財務会計の論文の精読に取り組みます。
- ・春休みには卒業論文の研究計画書の作成を課す予定です。

【自学自習および学修の方法】

- ・ゼミでは「教わる」ではなく、「自ら学ぶ」「教え合う」姿勢が不可欠です。
- ・ゼミは学びのきっかけに過ぎません。テキスト以外の専門書や論文を自主的に読んだり、日ごろから現実の企業活動に関心を持ったりしてください。
- ・各回とも予習と復習を合わせて180分を目途に自習を行うよう心掛けてください。

【授業形態】

- ・全回対面形式で実施します。しかしながら状況によっては全てまたは一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

- 【教科書】桜井久勝『財務会計の重要論点』中央経済社、2017年（2,800円＋税）
（授業開始後に受講者全員分をまとめて購入する予定）

オフィスアワー 前期は金曜日16-17時、後期は火曜日18-19時。指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じます。なお、会議等で不在の場合や、感染症対策のため研究室（南2号館3階）以外で相談に応じることがあるため、事前連絡することが望ましいです。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習形式の授業では、毎回の出席は当然の前提であり、加えて主体的な参加姿勢が不可欠です。授業のレベルはゼミ生全体の学修姿勢に左右されます。このため、ゼミ生には十分な事前学習と積極的なディスカッション参加が求められます。また、講義中の私語やスマホ等の目的外使用をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処するとともに、個別演習の受入れを謝絶します。

【2023年度個別演習選考基準】

演習の取組状況をもとに選考します。

【2023年度個別演習の単位認定方法】

卒業研究の進捗と質、ならびに授業における報告の質やディスカッションへの参加状況によって成績を評価します。

【2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

詳細は個別演習時に説明しますが、財務会計に関連するテーマであって、卒業論文としてふさわしい質を備え、字数は20,000字以上であることが必要です。質という点では、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけでない独創的な課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められます。これらの達成度をもとに単位認定および成績評価を判断します。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323760) 演習 (向) Seminar 国際経営ゼミナール International Management Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 向 滄	関連授業科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
	履修推奨科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
学習時間 講義90分×30回+自学自習(準備学習90時間+事後学習30時間)、グループワーク			
授業の概要 本演習では、企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産・販売などの活動を行う場合、どのような問題が発生するのか？多国籍企業がいかに諸活動を効果的にマネジメントすることができるのか？新興国市場と企業の勃興が国際ビジネスに対してどんな影響を与えているのか？といった問いを、演習生に自らの興味・関心に基づいて立ててもらい、それらについて理論的・実証的な研究を行ってもらおう。 日常の演習活動に加えて、海外フィールドワークや合宿、他大学との合同ゼミなども適宜開催する。			
授業の目的 文献講読やグループ研究を通じて、卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・国際経営に関するレジユメないしレポートを書くことができる(学士課程のDP「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持ち、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文章を書くことができる(学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ・国際経営に関するプレゼンテーションと討論によって、自らの主張を他人に明確に伝えることができる(学士課程のDP「倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 平常点と小論文の内容に基づいて評価する。 平常点は主に出席状況、授業中の発表と議論、演習での活動全般へのコミットメント、およびグループ研究への貢献度を評価の基準とする。 なお、評価比率は平常点60%、小論文40%とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準 面接によって選考する。選考の基準は主に以下の3つである。 ①国際経営に対して関心・興味を持っている人 ②演習での活動全般に対して積極的に取り組める人 ③協調性と柔軟性を有し、他人と円滑な共同作業ができる人 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前期では、テキストや研究論文を輪読し、国際ビジネス研究に必要な専門知識を習得する。演習生が順番に指定文献についてレジユメを作り報告し、全員でディスカッションを行う。報告担当者以外も文献を精読して、その概要を纏め(A4用紙1枚程度)、意見をもって議論に参加する。 後期では、まず講座を3回設けて、教員は研究方法論、小論文の書き方および論理的思考法についてレクチャーを行う。その後、演習生はグループ研究に取り組む。研究の進捗状況と成果について中間発表をしてもらい、各チームに対して教員が研究指導と論文添削を行う。1月中旬をめぐり、各チームは最終成果物として、15,000字以上の小論文を提出する。 <p>*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合があります。</p>			

教科書・参考書等

- ・授業ごとに資料を配布する。
- ・参考書については、適宜紹介する。

オフィスアワー 木曜日3時限目、事前にe-mail等でアポイントメントを取ることを。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・令和5年度個別演習選考基準
 - ①3年生の演習から継続する場合は、特別な事情がない限り、選考を行わない。
 - ②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。
- ・令和5年度個別演習単位認定方法
卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。
- ・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。
 - ①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究
 - ②先行研究を踏まえた上で書かれていること
 - ③書式にのっとって書かれていること（書式については別途指示する）
 - ④論理性と独創性を持っていること
 - ⑤文字数は20,000字以上

ナンバリングコード B4SCL-bacE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 333786) 演習 (高橋(明)) Seminar 台湾の社会と文化 Taiwanese Society and Culture	科目区分 必修科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア文化論、外国語演習 (中国語)	
	履修推奨科目	外国語演習 (中国語) アジア文化論	
学習時間 授業時間 90分X15回+予習時間+現地研修約1週間			
授業の概要 「台湾人」は原住民、漢民族、日本人、と統治者が交代してきたため、中国語圏でも中華人民共和国とは異なる独特の価値観を持っています。日本と近代以降特に密接な関係にあった台湾について、日本人の理解は十分とは言えません。現在の台湾は、特に対中政策をめぐって鮮明な対立を内包しており、政権交代をしては次の選挙で与党側が不利になるという不安定な状況でもあります。また、多種類の言語と文化・宗教が混在して、様々な顔を持っています。このゼミでは書籍、論文の輪読や現地見学を足場に、幾つかの視点から、台湾の現状を分析します。			
授業の目的 1 台湾に関する卒業論文制作の基礎として、資料の収集法、批判的な読み方、実地での観察結果をレポートにまとめることなどを通して、実際の手順を身に着ける。(DPの「知識・理解」に対応) 2 中国語・英文資料も利用して台湾の現状について理解する。(DPの「言語運用能力」に対応) 3 同じく中国語を国語とする中国と台湾の国家体制、文化、価値観についてそれぞれの特徴を区別して説明できる(DPの「知識・理解」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1 資料を読みレジюмеにまとめて発表することができる 2 現地で資料を集めたり、現状観察の結果を文書化することができる。 3 同じく中国語を国語とする中国と台湾の国家体制、文化、価値観についてそれぞれの特徴を区別して説明できる			
成績評価の方法と基準 演習での分担作業や発表(40%) 現地調査の準備や、現地での行動(20%) 現地見学・調査のまとめレポートと口頭発表(40%) なお、出席は当然なので減点基準にしなければならない。 なおこの演習において現地台湾での見学調査は3年次、4年次とも必須であり、現地研修に参加しない場合、原則として単位は認定しない。(ただし海外渡航に関する国及び大学の方針により渡航が制限される場合を除く) なお4年次で提出する卒業論文では、中国語か英語の資料を一部に用いることが必要になります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準 台湾や中華文化圏に興味があり、自然・風景・街・人間を観察するのが好きな人向きです。教室外での活動があるので、他のメンバーとコミュニケーションが支障なくとれることも必要です。 この演習の活動には、渡航制限が解除された場合、台湾での見学・調査を含むので、中国語を履修していることが望ましいです。ただしコミュニケーション能力に自信があるものは未履修者でも差しつかえありません。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に対面で行います。 第1学期 台湾関係の教科書を輪読しながら分担部分について調査し、口頭で発表、それについての討議を行う。 7月初め奈良県である台湾学会を必ず聴講する。(3年次必須、4年次は希望者のみ) 第2学期 現地見学調査の準備、各自テーマの設定、帰国後の報告作成、口頭発表(渡航制限状況によっては実施できない場合があります) 授業準備として、自分の発表の回でない場合も、発表内容に関連する下読みをして、討議に備えてください。 			
注意して欲しいこと： 通常11月頃に実施する台湾現地研修は、3、4年次とも必須です。パスポート、渡航資金を秋口までに準備することが必要です。また身体的・宗教的理由で食べられないものが極端に多い人は向いていません。 7月初めには奈良県で開かれる台湾学会に聴講に行きます。 演習の授業自体は、基本定時に終了しますが、上記学外での授業のほか、留学生やOBとの懇親会などが年2回程度開かれますので、これも参加必須です。 また台湾・中国からの交換留学生のチューターをお願いすることになります。(交換留学が再開された場合)			

＊＊海外での研修は、例年11月頃に行っていますが、今年度・来年度は海外渡航に関する日本の外務省・文部科学省・香川大学及び台湾当局の制限が緩和された時期に行うことになります。

なお中国語圏に限らず長期の留学を3，4年次に計画している人は、予め選考時に申し出てください。
また、海外での見学を含むゼミであることを、ゼミ決定後保護者の方には了解していただってください。

教科書・参考書等

参考書：台湾人生 酒井充子 光文社知恵の森文庫 814円
革命のつくり方 台湾ひまわり運動、インスピリクト 2373円
台湾の若者を知りたい 水野俊平 岩波書店
台湾の鉄路と日本人一線路に刻まれた日本の軌跡 交通新聞社新書
日本と台湾 加瀬英明 祥伝社新書867円
台湾はなぜ親日なのか 田代正廣 彩図社
反中VS.親中の台湾 近藤伸二 集英社新書
台湾 したたかな隣人 酒井亨 集英社新書
台湾物語 新井一二三 筑摩選書

オフィスアワー 前期 金曜3時間目 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・2022年度個別演習選考基準
演習受講者は基本的に受け入れます。他の個別演習と並行して受講を希望する者は、中国語を学習していることが必須です。選考は面接によります。

・2021年度個別演習単位認定方法
秋の現地調査にいたる準備と、それを卒業研究に活かしているかで判断します。4年次現地調査も必須です。

・2021年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
台湾に関することで研究として成立しうるものであれば基本的にそのテーマを認めます。中国語履修者は中国語の、未履修者は英語の文献を少なくとも1本は利用することを求めます。日本語で20000字以上。なお中国語を母語とするものや特別履修プログラム参加者は中国語で提出することも認めます。(中国語の場合10000字以上)
なお、研修の中身については学部ホームページを参照してください。

(<https://www.ec.kagawa-u.ac.jp/international/shinri/> 高橋ゼミの台湾研修)

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323762) 演習 (張) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、現代企業論	
	履修推奨科目		
学習時間 授業時間90分×30回+自学自習 (準備学習82時間+事後学習10時間)			
授業の概要 この授業では、企業の歴史、企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたのかなど、経営史分野における専門的な知識の習得と調査研究方法を習得する。主な内容は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・経営史に関する文献の輪読とディスカッション ・グループワーク。研究テーマの設定および研究課題の実証分析 ・各自の問題意識や研究成果に基づく研究発表 			
授業の目的 この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・企業およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し、現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できること。 ・グループワークを通じて、グループでの問題解決能力とプレゼンテーション能力を身につける。 ・問題意識に基づき、先行研究を収集整理し、実証的に分析する手法を習得する。 			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・経営史に関わる基礎的知識、理論が習得できる。 ・チームワークで研究課題を解決することを学べる。 ・問題関心に基づく研究活動とそれをまとめる能力が鍛えられる。 			
成績評価の方法と基準 平常点60% (出席、発言、参加姿勢)、宿題40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 面接によって選考する。 選考基準は、以下の3つを重視する。 <ul style="list-style-type: none"> ・経営史に対する興味 ・学習意欲 ・問題関心 			
【授業計画と学習の方法】 ※対面により実施することを基本とする。 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業に関する説明と課題設定 第2～9回 経営史に関する文献の輪読 第10回 グループワーク：ディスカッション・テーマ設定 第11～14回 グループワーク：テーマに即した先行研究の学習とプレゼンテーション 第15回 まとめ			
第16回 オリエンテーション：第2学期の授業に関する説明と課題設定 第17～21回 文献輪読・ディスカッション 第22回 各人の卒業論文テーマ設定 第23～26回 各人のテーマに即した先行研究の学習と発表 第27～29回 各人のテーマに即した卒業論文の構想発表とディスカッション 第30回 まとめ			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第2～9回 文献の輪読を予定しています。事前に配布された文献をよく読解したうえ、授業に臨むこと。(4時間×8回) 第10回 グループで議論し、テーマ設定まで進める予定です。グループの仮テーマを少なくとも3つを用意すること。テーマ選定ならびに研究テーマとして実行可能に関わる客観的な理由も備えること。(10時間) 第11～14回 プレゼンテーションの準備(準備学習)、質疑応答で得た反省点を中心とした学習を行うこと。(準備3時間+事後2時間、各グループ1回) 第17～21回 文献の輪読を予定しています。事前に配布された文献をよく読解したうえ、授業に臨むこと。(4時間×6回) 第22回 グループで議論し、テーマ設定まで進める予定です。自分の仮テーマを少なくとも3つを用意すること。テーマ選定ならびに研究テーマとして実行可能に関わる客観的な理由も備えること。(10時間) 第23～26回 プレゼンテーションの準備(準備学習)、質疑応答で得た反省点を中心とした学習を行うこと。(準備4時間+事後4時間、各個人1回) 第27～29回 卒論の構想発表と質疑応答を行う予定です。発表の準備、質疑応答で得た反省点を中心とした学習を行うこと。(準備3時間+事後4時間、各個人1回)			

教科書・参考書等

教科書：宮本又郎等編著『1からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014年、2400円

参考書については、受講生と相談の上、指定する。

※教科書は輪読する際に使用するので、購入は必須です。参考書の購入は求めません。

オフィスアワー 火曜日の三時限目。研究室（南キャンパス3号館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【個別演習選考基準】

演習の成績、卒業論文の計画内容によって判断する。

【個別演習単位認定方法】

卒業論文の中間報告で評価する。

【卒業論文の作成要領と単位認定方法】

- ・経営史の分野におけるテーマ設定であること。
- ・先行研究を体系的に整理し、実証的に論述を展開している。
- ・研究の意義と限界を明白にしている。

自学自習について

授業内容は個人またはグループで事前に準備する必要がある。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323761) 演習 (趙) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論A, B 流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言われていること（理論）と照らし合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法則的に、統一的に説明できるように道筋を立てて組み立てられた知識の体系」です。「個々の現象」とは世の中で起きている出来事ですが、現実（「個々の現象」）は常に変化しているわけです。理論は現実を説明するためのものですから、現実がかなり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実に当てはまるように理論を作りかえなければなりません。本演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。			
授業の目的 本演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説（仮の答え）を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろん、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目（社会で起きていることを理論と対応させながら考える力）」を養うことを、目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかわりをもつか理解できるようになること。 2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できるようになること。 3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できるようになること。			
成績評価の方法と基準 出席状況、報告内容、議論における積極性、グループワークへの取り組みなどの状況に基づいて評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準 積極的に学ぼうとする姿勢があるかどうか。 仲間意識を持ってグループワークに協力的に参加するかどうか。 指導教員による修学指導を受け入れるつもりがあるかどうか。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前期の演習では、毎回、報告担当者がテキストの担当章についてレジュメを作成・報告し、議論をすることを通じて、マーケティングや流通に関する知識を深めます。 後期の演習では、各グループが自由にテーマを選び、研究を行うが、毎回の演習で1つのグループが報告し議論を行い、問題を深めつつ研究を進めます。 <p>注) この演習は基本に対面授業を行います。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態をオンラインへ変更する可能性があります。</p>			
教科書・参考書等 必要に応じてプリントを配布します。			
オフィスアワー 随時、研究室（南キャンパス3号館3階）にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・個別演習選考基準 演習での取り組み状況（演習への積極性、卒論進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的に判断する。 ・個別演習単位認定方法 卒論進行状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断する。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 文字数：20,000字以上。 マーケティングや流通はもちろん、経営学分野のテーマを選ぶ。 できるだけ1次データを収集して分析する。 			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 333792) 演習(西成) Seminar まちづくり・デザイン研究	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、地域活性化プロジェクト、 地域をデザインする思考と実践	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 研究発表・作業等90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 衰退する地域には何が必要なのでしょう、高齢過疎化は問題なのでしょう。 これまで着実に作りあげられた人口拡大社会の仕組みを根本から見直し、環境・エネルギーや合意形成(政治)の問題に対応する新たな社会づくりが「まちづくり」に求められています。 本ゼミでは、「デザイン」という観点からこうした問題の解決を考えていきます。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くような“デザイン”ではなく、「具現化するプロセス」そのものを「デザイン」と呼んでいます。社会の仕組みが大きく変化する今だからこそ、新たな発想で地域に価値を生み出していく必要があります。 人も思考も創造的に、ゼミ活動も楽しく創造的にいきましょう。			
授業の目的 学生自身が自分の問題意識・興味関心を明確化し、主体的な学びを得ることが目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①研究の思考方法・やり方を習得する 重要なことは、自分自身の問題意識を明確化し、認識することです。			
②プロジェクトの運営能力を身につける 実社会で求められていることは何か、地域の問題を解決するために、複数人でプロジェクトを行う運営能力を身につけます。			
成績評価の方法と基準 「研究」と「プロジェクト」への取り組み姿勢と成果。ゼミでの発言と主体性。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ≪選考基準≫ 選考基準は「やる気(本気で取り組めるか)」と「適性(興味や自主性)」です。 ≪授業計画並びに授業及び学習の方法≫ 本ゼミでは、①個人研究と②プロジェクトが二本柱です。 ①個人研究(主に4年生) 「まちづくり×○○」 この○○に各自の興味・関心を入れてください。 「研究」はすでに世の中で明らかになっていることを「学ぶ」のではなく、これまで明らかとされていなかった知見や事柄を「追及」していく極めて創造的な思考活動です。 学生自身が現段階では気付いていない、各自の深い問題意識・興味関心を自分自身で見出すことが最大の目的ともいえます。 昨年までの卒業論文タイトルをいくつか紹介します。 卒業論文 <ul style="list-style-type: none"> 自治体におけるInstagramを活用した情報発信の現状と課題に関する研究 塩江における温泉地としての繁栄と衰退に関する研究 子育て環境の変化に対応した「子ども食堂」に求められる多様な役割に関する研究 町の盛衰に着目した高松市常磐町商店街の歴史的変遷に関する研究 官民連携による共創の場づくりに関する研究 空き家の発生しやすいエリアを対象とした現状分析とその対策に関する研究 シビックプライド醸成要因に関する基礎的研究—高松で活動する6名の対話を通じて 長期的なエリアリノベーションにおける段階的発展要因に関する研究 理想地図づくりによるコミュニティの主体意識形成に関する実践的研究 石清尾八幡宮の伝統的祭礼に関する研究 銭湯にみる高松の都市生活とその変遷に関する研究 公共空間における芸術・音楽を通じた文化政策に関する研究 高松市内におけるシンボルとしての「鎮守の森」に関する研究 森林を活用した医療・福祉行為に関する事例研究 など 			

詳しくは研究室のWebページから卒論要旨を参照してください。
<http://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~nishinari/student.html>

②プロジェクト（主に3年生）

毎年、プロジェクト内容やテーマは変わっており、ゼミに集まったメンバーや学生自身の興味関心によってプロジェクト内容は決めていきます。
また、進め方としては個人で進めるプロジェクトや調査もあり、必ずしもグループやメンバー全員で進めるものではありません。

なお、ゼミは基本的に対面で実施しますが、一部の授業回では遠隔とする可能性があります。
今後の状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等
適宜紹介します。

オフィスアワー 木曜日3時限目 南3号館3階西成研究室にて（その他、随時受け付けます）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・令和5年度個別演習選考基準

基本的に希望者は継続して受け入れます。

・令和5年度個別演習単位認定方法

研究への取り組み姿勢と成果。ゼミ活動への主体的参加。

・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文は読み手に一定のクオリティを超えた知的刺激を与えなければなりません。

それぞれの問題意識・興味関心からオリジナリティのある研究に取り組んでほしいです。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323757) 演習 (朴恩) Seminar 多様な会計領域について知る	科目区分 必修科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 E	単位数 4	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、株式会社社会計	
	履修推奨科目	会計学関連科目	
学習時間 講義90分×30回 + 自主学習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 1-2年での学んだ会計関連授業科目での基礎を確認します。 財務会計が扱われる領域の広さ、社会の組織とそれを支える会計システムに関してより興味をもってもらいます。それによって、知識向上だけでなく、現実に使える身近な会計の可能性を高めます。			
授業の目的 授業ではテキストを輪読して、担当者が必要な資料を加えながら担当部分に関して報告する、プレゼンテーションの形式をとります。担当者は報告に関するすべての事前準備を行い、報告とその後の自由討論までも司会者としてリードします。もちろん、担当者以外の皆さんにも積極的な討論に加わることができるよう、事前学習が求められます。これらの過程を経て、演習参加者は専門知識の習得とともに、文章作成能力、他人への情報発信能力、さらには討論を通して課題探求と問題解決能力を向上させることができます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 財務会計を中心とした専門知識を周到することができます。 2. プレゼンテーションと討論を繰り返すことで、得た知識を理解し、活用するとともに、他人に適切に自分の意見を伝えるスキルが身につきます。			
成績評価の方法と基準 討論への参加、プレゼンテーションの方法やコンテンツなどの総合的評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準 面接方式。面接では、演習への意気込み、自己アピールが選考の重要な判断材料となります。会計への関心や演習活動への積極的な姿勢とともに、志望動機を具体的に説明してください。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前半は基礎と専門的な理論中心のテキスト学習、後半はより時事的なものと実際の企業の情報を対象に分析を行うことにします。テキスト中心といっても、関連する資料をしっかりとチェックし、完成度の高いプレゼンテーションと討論ができるよう、演習参加者の積極的に取り組むを期待しています。 <p>注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別演習選考基準 卒業論文のための準備や取り組み状況を見て、判断します。特に、演習での総合評価が主な判断基準となります。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成は以下のプロセスで指導し、取り組みの態度と成果をみて、総合的に判断します。 <p>4月-5月 3年生の演習を通して、自分が興味を持つテーマを複数取り上げて、それに関する簡単な報告を行います。論文のテーマ探しの時間です。</p> <p>6月-7月 テーマをひとつに絞って、そのために必要な参考文献や論文などを探し、そこからそのテーマを選んだ理由や論文の意義、目次と各章への大まかな内容を決めていきます。7月の最後の個別演習では目次が確定します。ここでは、選んだテーマに関する多くの資料と情報を探ることが重要となります。</p> <p>8月-9月 (夏休み中) 論文テーマに関連する資料を徹底的に探し、後期の論文作成に備えます。</p> <p>10月-11月 毎回1章ずつ論文を作成・報告してもらい、個別に細かい指導を行います。次の回には修正分と新しい章を用意します。(小グループでの個別指導体制)</p> <p>12月 論文を書き上げます。</p> <p>1月 細かい修正作業後、完成論文を提出します。</p>			

教科書・参考書等

前半は会計学総論で使用した桜井久勝『財務会計講義』を使って各論の勉強をします。最新版を改めて購入する必要はありません。改訂の部分は授業で確認します。

後半の教科書は学生との話し合いで決めます。テキストが複数になることもあります。

参考書や関連資料は必要に応じて随時指示します。

オフィスアワー 木曜日 2 講目 (10:30-12:00) 南キャンパス3号館3階 (朴恩研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・4年次個別演習選考基準

3年次演習での学習態度や課題遂行能力を総合的に評価したうえで、卒論作成への意気込みをみて判断します。他の演習出身者の場合は、面接を通して、個別演習で学習目的を確認して選考します。一般授業と違い、構成員としての役割が重要となります。

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323750) 演習 (朴鏡) Seminar 管理会計の理論と実践	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計学関連の授業科目	
	履修推奨科目	経営学関連の授業科目	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習 (準備学習60時間＋事後学習60時間)			
授業の概要 この授業では、管理会計の理論と実践に関する研究の指導を行う。 前期では、経営の様々な目的のために実践される原価計算手法について学ぶ。 後期では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、問題の演習や事例の分析を通して経営意思決定、原価管理、業績評価に関する知識の習得を目指す。また、各自が関心をもったトピックに関連する文献をできるだけ多く読んでもらい、次に続く卒業論文作成のための基礎能力を身につけるよう指導を行う。			
授業の目的 管理会計の理論と実践に関する基礎知識を身につける(DPの「知識・理解」に対応)とともに、原価計算、原価管理、経営意思決定、業績評価等の諸問題について管理会計情報を用いて分析できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 財務諸表の作成と原価管理のためにコスト情報を作成・活用できる。 2. 管理会計情報を用いて代替案間の優劣を評価できる。 3. 管理会計情報が人や組織の意思決定に及ぼす影響について説明できる。 4. 管理プロセスにおける管理会計の役割を説明できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況、討論への参加度、チームワーク、報告内容、レポート、ゼミ活動への参加状況などを総合的に評価して決定する。評価にはルーブリック評価表を評価基準の一つとして用いる。なお、無断欠席3回以上の場合には単位を認定しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 1. 人と組織のマネジメントに興味を持っているかどうか 2. 管理会計及びコストマネジメントに関する基礎知識があるかどうか 3. 2年次までの単位取得状況と成績(面接時には成績表を必ず持参すること)			
【授業計画並びに授業及び学習の方法】 第1回 オリエンテーション 第2回～第13回 原価計算手法について学習(個人による報告、問題の演習や事例の分析) 第14回～第15回 財務諸表分析(グループによる事例分析及び発表・討論) 第16回～27回 管理会計トピックについて学習(個人による報告、問題の演習や事例の分析) 第28回～30回 事例研究(グループによる発表・討論)			
この授業は基本的に対面授業を行うが、一部の授業回では遠隔授業を行う場合もある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 ・ 授業前に授業内容に関連する資料を熟読し、予習すること(毎回2時間程度の予習が必要である) ・ 授業中に取り上げたトピックスや例題等を復習すること(毎回2時間程度の復習が必要である)			
教科書・参考書等 テキストと参考書は初回の授業で紹介する。			
オフィスアワー 木曜日15時～16時の間、南キャンパス2号館2階 朴研究室において随時、質問・相談などに応じる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・ 令和5年度個別演習選考基準 演習の成績による。 ・ 令和5年度個別演習単位認定方法 出席状況、ゼミ活動への参加度、卒業論文への取り組み、報告内容などを総合的に評価して決定する。評価にはルーブリック評価表を成績評価基準の一つとして用いる。なお、無断欠席3回以上の場合には単位を認定しない。 ・ 令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 本文20,000字以上で、論理性、新規性を重視して評価する。評価にはルーブリック評価表を成績評価基準の一つとして用いる。その他、作成要領については個別演習の中で別途指示する			

ナンバリングコード B4GE0-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 333780) 演習(原) Seminar 観光振興・環境保全・地域活性化のアクションリサーチ	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
	履修推奨科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
学習時間 授業90分×30回＋自学自習(準備学習60時間＋事後学習60時間)			
授業の概要 教室での学修とフィールドでの実践により、地域活性化につながる観光振興・地域振興策やSDGs・環境保全・多文化共生に寄与する地域施策・事業を企画・実践する。(このような手法をアクションリサーチという) 企業、県庁・市役所・町役場、農協、NPO、住民等とともに活動することが多い。今年度は特に民間企業、地方自治体等との連携により、香川・四国・瀬戸内島しょ部での観光振興・地方創生・SDGs・環境保全・多文化共生とビジネスの両立に取り組むことを主とする。 社会が大学教育に強く求めているチャレンジ精神、課題探求・解決力が身につくが、そのためには行動力、思考力、コミュニケーション力が要求される。 四国内でのゼミ旅行、東京での協定校大学や民間企業との合同研修も予定している。(新型コロナウイルス感染症等の影響により変更になる可能性がある)			
授業の目的 地域活性化につながる観光振興・地域振興策を企画・実践することにより、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. チャレンジ精神が身につく。 2. 課題探求・解決力が身につく。 3. コミュニケーション力が身につく。 4. 能動的な学習をもたらす主体的な学習ができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加態度(積極性など)・参加内容(取組内容)、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準 志望動機を提出してもらったうえで、個人面接を行う。個人面接では、これまでの学生生活での活動内容、学修内容、積極性等をみるが、重視するのは行動力、思考力、コミュニケーション力である。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 1年間かけて、教室での学修とフィールドでの実践との融合をはかる。 第1回～第7回 テキスト1 輪読(マーケティング戦略) 第8回～第15回 テキスト2 輪読(ビジネスモデル) 第16回～第22回 財務諸表分析 第23回～第30回 卒論準備 ※この授業は基本的に対面で行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 ※四国内でのゼミ旅行、東京での協定校大学や民間企業との合同研修も予定している。(新型コロナウイルス感染症等の影響により変更になる可能性がある) 			
<教室での学修> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学、経営学的視点を学ぶ。 ・アンケート分析、質的データ分析を学ぶ。 ・アクションリサーチを学び、実際に行う。 			
<フィールドでの実践> ※今年度は以下のものを予定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品の企画・販売：JR四国等民間企業との連携事業 ・ワーケーションによる観光振興・地域振興：香川県等との連携事業(小豆島で実施予定) ・農泊・農村振興：香川県等との連携事業 ・海ゴミやプラスチックゴミ問題への取組(SDGs、環境保全)：香川県、民間企業等との連携事業 ・地域と多文化共生：小豆島町等との連携事業(小豆島で実施予定) ・中小企業のDX支援：香川大学DX担当部門との連携事業(善通寺市等で実施予定) 			

<自学自習のためのアドバイス>

第1回～7回 発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(30時間)

第8回～15回 発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(30時間)

第16回～22回 発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(30時間)

第23回～30回 発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(30時間)

教科書・参考書等

授業時に指定する。

オフィスアワー 木曜2限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・令和5年度個別演習選考基準

演習でのレポートおよび取組姿勢によって選考する。

・令和5年度個別演習単位認定方法

授業およびフィールドワークへの参加態度(積極性など)・参加内容(取組内容)、各種報告会での発表内容、卒論等により総合的に判断する。

・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

演習での各自の取り組む課題を卒論にする。20,000字程度が目安だが、量より質を重視する。

ナンバリングコード B4STT-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313707) 演習 (久松) Seminar 統計データを使った経済分析の理論と方法	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目 統計学入門, 統計学, 計量経済学I, 計量経済学II, マクロ経済学I, マクロ経済学II, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II		
	履修推奨科目 統計学入門, 統計学, 計量経済学I, 計量経済学II, マクロ経済学I, マクロ経済学II, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 論証の仕方を身に付け, 自分でテーマを決めて仮説を立て, 統計データを駆使して仮説の妥当性を検証できるようになる.			
授業の目的 統計データを使った経済分析ができるようになる. 卒論作成のための分析の技術や考え方を身につけ, 自分決めたテーマに沿って丁寧な現状分析やデータによる要因分析ができるようになる.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 統計学や計量経済学の基礎知識をもとに, 統計分析の方法を検証に使えるようになる. 論文の組み立て方を身につける. データ分析結果をもとに論証する方法を身につける. 			
成績評価の方法と基準 出席状況と受講態度を見て判断する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【選考基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 単位取得状況と演習に取り組む意欲があるかどうかで判断する. 統計学入門, 統計学の単位を取得済みであること. (必須) 計量経済学Iを履修している方が望ましい. 次のいずれかあるいは複数の事項があてはまる. <ol style="list-style-type: none"> 統計学や計量経済学に関心がある. 統計検定2級試験を受けたいと思っている. 論証の仕方に関心がある. Excel実習が苦にならない. 回帰分析の基礎と応用に関心がある. <p>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</p> <p>前期はゼミナール形式で, テキスト『計量経済学』を担当を決めて報告し, 質疑応答しながら進めていく. 後期は論文の組み立て方に関する本を読んで, その手順にしたがって何かテーマを決めてレポート(ショートバージョンの論文)を作成してみる. そのさい, データを使った統計分析の結果を論拠として使う場合の, 論文への組み込み方についても練習する.</p> <p>この科目は全回対面で授業を行う. なお, 状況によっては授業形態を全ての授業回または一部の授業回を遠隔で行う場合がある.</p> <p>【2023年度個別演習選考基準】 演習への取り組み方を見て判断する.</p> <p>【2023年度個別演習単位認定方法】 出席状況, 受講態度, 卒論研究への取り組み方を見て判断する.</p> <p>【2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】 卒業論文のテーマは各自の自由. 自分が持っている素朴な疑問にたいして, こうではないかと仮説を立て, 関連する情報を調べて仮説の妥当性をデータを使って検証する. 卒業論文作成は, 主題文(仮のテーマ, 仮の主題文, キーワード一覧)を作成して, 材料が集まったらアウトライン(章の構成と材料との関連をまとめた表)を作成する. 毎週, 個別演習で卒論作成の進捗状況を報告し, 徐々に改訂していき卒論を完成させる. 卒論のボリュームの目安は, 図表, 目次, 参考文献一覧等をすべて含めてA4サイズで30枚程度.</p>			

教科書・参考書等

1. 『計量経済学』山本拓著，新世社，1995年初版，2013年第25刷，3300円＋税
2. 『入門計量経済学』山本拓，竹内明香著，新世社，2013年初版
3. 『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』戸田山和久著，NHKブックス，2022年

オフィスアワー 月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 統計学入門，統計学の単位を取得済みであること。（必須）
2. 計量経済学Iを履修している方が望ましい。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 313727) 演習 (福村) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 福村 晃一	関連授業科目	マクロ経済Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 上級マクロ経済学、上級ミクロ経済学、統計学、計量経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	マクロ経済Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 統計学	
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 この授業では、公共経済学が含まれる応用経済学について、理論分析を中心として、まずテキストの輪読を通じて学習していきます。その際、実証分析などのデータの取り扱い方法についてもできる限り勉強していきます。 2年次までに学習したミクロ経済学やマクロ経済学といったツールを実際の社会の経済現象にあてはめて分析していくのが、応用経済学です。 実際の経済現象、政策や企業活動などを経済学の観点から分析して、よりよい社会にする方策を考えるという経済学の醍醐味を一緒に学びましょう。 現在では、応用分野の労働経済学のテキストの輪読を考えていますが、受講者の希望などを考慮して、変更することがあります。			
授業の目的 現実の社会における様々な経済現象やそれに対応した政策を、経済学の立場から分析するために必要な理論上の概念について深く学ぶ。 その結果、官庁・企業などで政策や業務計画などの企画・立案・推進・評価などを行うために必要な、応用経済学に関する基礎的な知識や考え方を習得する。 また、それらを学習する際に関連する統計データの取り扱い方法についても学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 応用経済学で用いられている分析の手法や結果の解釈の仕方について説明できる。(DPの知識・理解 (21世紀型市民及び学士 (経済学) として) と対応) 2. 現実世界での様々な問題について、応用経済学で用いられている手法を用いて、解決策を提案できる。(DPの問題解決・課題探求能力と対応)			
成績評価の方法と基準 演習での発表や議論、演習運営への貢献、ゼミ論文を総合的に判断します。 評価にはルーブリック評価表を用いる。 ゼミ論文では、個人で書く卒業論文執筆のための練習として、グループで論文を1本書いてもらいます。 ゼミ論文を個人で発展させて卒業論文としてもよいし、別のテーマで執筆しても構いません。ただし、卒業論文はゼミ論文と完全に同一内容としてはいけません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 以下の観点から選考を行う。 ・ 現実社会の現象や問題を経済学の観点から論理的に説明できるようになりたいかどうか ・ 自分が重要だと思う問題を多角的な視点から粘り強く考えたいかどうか ・ 社会の構成員として、他人に対して誠実な言動をとることができるかどうか 成績と面接によって判断する。 開講2年目なので、先輩からのサポートは少しですがあります。しかし、学問の学修は受講生のやる気が一番大事です。また、先輩もわからないところは、教員が適宜サポートします。また、受講生間でいろいろなことで協力することもできます。しっかりと勉強したい人を歓迎します。 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 社会情勢などの影響により、変更が生じる場合があります。 この科目は原則全回対面授業を行います。			

第1回 顔合わせ・輪読担当決め
第2回-15回 教科書輪読・ネタ探し
夏季 ゼミ合宿でゼミ論文のネタ出し
第16回-29回 ゼミ論文執筆進捗報告
第30回 報告会

【授業の方法】

講義形式、および、プレゼン、ディスカッション、グループワークなどの形式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

輪読の準備などの予習と、輪読の内容の各自の復習を必ず行うこと。

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。現在の想定は1. の労働経済学であるが、受講生の希望に応じて2. の都市経済学などに変わる可能性がある。

1. 労働経済学、川口大司、有斐閣、2017、2800円+税
2. 都市経済学第2版、金本良嗣・藤原徹、東洋経済新報社、2016、3,200円+税

オフィスアワー 毎週火曜日4時間目に、南3号館2階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールで予約を取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

経済学を勉強して、役立てられるようになるためには、長い期間の練習が必要です。一步一步着実に勉強することが重要です。

【2023年度個別演習選考基準】

2022年度演習履修生については、原則として受け入れ、出席回数・発表内容など、演習への取り組みを総合的に判断する。

それ以外の学生については、成績・面談などを通じて総合的に判断する。

【2023年度個別演習単位認定方法】

出席状況、議論への参加、卒業論文への取り組みの態度を見て総合的に判断する。

評価にはルーブリック評価表を用いる。

【2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

日本語で2万字程度の分量を目安としてワープロソフトを用いて英語もしくは日本語で執筆する。

ただし、評価の対象となるのは、字数ではなく内容である。

内容は経済学に関連するものであればよい。

卒業論文の単位認定方針は、卒業論文の独自性や付加価値などに基づいて総合的に評価する。

評価にはルーブリック評価表を用いる。

ナンバリングコード B4ECN-cbeE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313720) 演習 (藤原) Seminar マクロ経済学で読み解く日本経済	科目区分 必修科目	時間割 前期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論・金融政策・マクロ経済学	
	履修推奨科目	金融論・金融政策・マクロ経済学	
学習時間 講義90分×30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 「なぜデフレから脱却できないの?」「どうして円安になったの?」などの経済問題に対して、答えを見つけるための最良のツールがマクロ経済学です。この学問は経済全体を単純化した「モデル」でとらえ、財・労働・金融・貨幣の4つの市場で、家計・企業・金融機関・政府・海外部門の各プレーヤーが「買い手」や「売り手」になりながら、GDPやインフレ率、金利、為替レートなどが決まるプロセスを示してくれます。この授業では、実際の日本経済の動きを説明できる「モデル」を作るコツを、分かりやすい図表や数式を使って解説していきます。			
授業の目的 ・マクロ経済学的な視点から日本経済を観察する。 ・マクロ経済モデルの基本を学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・日本のマクロ経済の現状を説明できる。 ・マクロ経済の金融面と実物面との相互作用を説明できる。 ・国際的な側面からマクロ経済を分析できる。			
成績評価の方法と基準 ・授業中の取組み 60% ・課題 40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ・選考基準 面接 (対面形式) による人物評価とそれまでの成績状況を総合的に判断します。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 授業形態は基本的に対面とします。 【授業及び学習の方法】 教科書に沿って進めていきます。教員が毎回、教科書に基づいた書き込み式のハンドアウトを用意するので、学生はそれに書き込みながら授業を受けていきます。順番に学生を当てながら、質問したり、前に出て図示してもらったりします。予習や復習のための問題を出します。 リアルタイムでマクロ経済的なニュースを新聞記事などで共有します。時間的に余裕があれば実際のマクロ経済データを用いて、EXCELなどで簡単な分析を行います。 3年次か4年次に香川県の高校を訪れて、演習で学んだことを題材にして、高校生向けに出前授業をしてもらう予定である。 【授業計画】 以下は仮のもので教科書が正式に決まってから確定する。 第1回 ガイダンス 第2回 マクロ経済学の課題 第3回 マクロ経済活動の測定 第4回 〃 第5回 インフレーションとデフレーション 第6回 完全雇用モデル 第7回 〃			

- 第8回 "
- 第9回 完全雇用下の財政
- 第10回 開放経済
- 第11回 "
- 第12回 経済成長と生産性
- 第13回 貨幣、物価水準と中央銀行
- 第14回 "
- 第15回 "
- 第16回 前期の復習
- 第17回 経済変動の理論
- 第18回 "
- 第19回 "
- 第20回 総支出と総所得
- 第21回 "
- 第22回 "
- 第23回 総需要とインフレーション
- 第24回 "
- 第25回 中央銀行と利子率
- 第26回 "
- 第27回 金融・財政政策
- 第28回 国際金融システム
- 第29回 開放マクロ経済と政府の政策
- 第30回 "

【自学自習のためのアドバイス】

第1回～第30回 事前に教科書を読み、予習課題をこなす（各2時間×30＝60時間）

第1回～第30回 授業後にハンドアウトを読み返し、復習課題をこなす（各2時間×30＝60時間）

普段から新聞やニュースで日本経済全体に関わる問題、例えばGDPや物価が何%上昇したか、日銀が金融政策をどう変更したか、最近の為替レートはどうかなどを注意して見ておいてください。

教科書・参考書等

（教科書）最初の授業で決める。

（参考書）『スティグリッツ マクロ経済学 第4版』（2014）ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ（著） 藪下史郎ほか（訳）、東洋経済新報社、¥4,180

オフィスアワー 月～木 9：30～11：30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

マクロ経済学は世界大恐慌をきっかけにして1930年代に欧米で誕生したまだ「若い」学問です。その考え方を一度学ぶと、その面白さはずっと頭に残ると思います。抽象的な思考が向いていない人にも丁寧に教えていきます。

・令和5年度個別演習選考基準
演習での取り組み状況によって評価する。

・令和5年度個別演習単位認定方法
授業への取り組み態度75%、課題25%で評価する。

・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
テーマは原則として経済に関係したことから自由である。字数は20000字以上とする。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323736) 演習 (藤村) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	観光およびマーケティング関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論B	
学習時間	講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間) + グループ研究 (60時間)		
授業の概要 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えの導き出し方の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を自ら導き出す能力の習得するために行われる。そのため本演習では、観光やマーケティング、消費者行動に関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を創り出すために、理論的な考察によって仮説を構築し、それを量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得する。 具体的には、テキストを輪読し、観光やマーケティングの研究に必要な基礎知識を習得する。さらに、観光やマーケティングの学習においては、自ら経験し五感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であることから、企業や地域見学のための国内旅行、あるいは異文化体験のための海外旅行を行う予定である。 また、夏休み前に関心のある研究テーマによってグループを作り、グループごとに理論的・実証的研究を行なう。研究成果については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行なう。さらに、4年生の個別演習にも出席し、4年生の卒論研究発表およびそれらに関する討議に参加することで、仮説構築やその仮説検証のための調査票作成、多変量解析ソフトを用いての仮説検証方法などを習得する。			
授業の目的 観光やマーケティングに関する研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定することで、理論的な考察によって仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証することで、問いに対する解を創り出す能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光やマーケティングにかかわる問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌の観光事業やマーケティング戦略に関する記事を理解・解説できる。 3. 仮説を構築し、検証するための技法を習得できる。			
成績評価の方法と基準 演習単位の認定においては、出席状況 (10%)、レジュメによる報告内容 (30%)、討議内容 (30%)、およびグループ研究活動とその発表内容 (30%) を考慮する。なお、無断欠席が3回以上行われた場合、単位は認定しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<選考基準> 演習選考基準は以下の3点である。 (1) 観光やマーケティング、地域活性化などに関心のある人 (2) 演習での活動全般に対して、積極性と協調性を有する人 (3) アルバイトやサークル活動よりもゼミ活動を優先できる人			
<授業計画並びに授業及び学習の方法> 各回とも担当者が教科書の担当章に関するレジュメを作成・報告し、それに基づき討議を行なう。また、前期の早い段階で研究グループを作って共同研究を行い、後期からは毎回1グループがグループ研究の中間報告を行い、討議を行う。			
第1回 ガイダンス 第2回～15回 輪読によって観光やマーケティングに関する理論の習得 第16回～30回 輪読によって観光やマーケティングに関する理論の習得 + グループ研究発表			
また、観光やマーケティング研究においては、現場を自ら体験し考える必要があるため、国内あるいは海外の企業や商業施設、観光地などの視察・調査を行なう。ただし、コロナ感染状況によっては、県内の企業や観光地などを視察・調査の対象とする。			
この科目は、全回対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1回～30回 各回の文献を読むとともに、重要な概念や理論、関連ケースを調べる。 (各回4時間) また、研究グループごとに理論的・実証的に研究を行う。(60時間)			

教科書・参考書等

教科書は使用するが、どのような内容のどの程度の水準のものを用いるのかは学生と相談して決める。
また、参考書は随時指示する。

オフィスアワー 月曜日：10時～12時 ゼミ終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

<2023年度個別演習選考基準>

個別演習選考基準の以下の4点である。

- (1) 演習での報告および討議内容
- (2) 卒業論文のテーマと作成意欲
- (3) 演習への参加状況および態度
- (4) 演習でのグループ研究活動の状況と発表内容

<2023年度個別演習単位認定方法>

個別演習単位の認定は、出席状況(10%)、レジュメによる報告内容(20%)、卒業論文研究活動および論文(50%)、討議内容(20%)により総合的に判断する。なお、無断欠席が3回以上行われた場合、単位は認定しない。

<2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針>

卒業論文の作成においては、学生らしい視点で観光やマーケティングにかかわる問題を考察しなければならない。なお、研究テーマについて理論的および実証的な考察を行うとともに、以下の条件の中の2つ以上を満たしていなければならない。

1. 外国語文献を用いる。
2. 質的あるいは量的調査を実施する。
3. 多変量解析ソフト (SPSS) を用いて分析する。

書式および分量は、以下の要件を満たしていなければならない。

1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサで書くこと。
2. 表紙、目次、参考文献、頁番号(表紙および目次以外の頁に通し番号で)は必ずつけること。

単位認定は研究内容の独創性(30%)と考察内容(70%)に基づいて行う。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 333978) 演習 (二ツ山) Seminar ゼミ	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目	国際観光論 観光産業論	
	履修推奨科目	国際観光論 観光産業論	
学習時間 授業90分×25回程度＋フィールドワーク＋自学自習			
授業の概要 本授業では、観光人類学・観光社会学で議論されてきた先行研究をふまえ、質的（場合によっては量的）調査法を用いることで、観光現象に関わる諸問題を明らかにします。 具体的には本授業では、以下のことを行うことで卒業論文の間を立てるところまでを目指します。 ①論文執筆のための基礎技術の習得 ②観光人類学・観光社会学の先行研究のレビュー ③問と仮説を立てる ④フィールドワークによる事前調査			
授業の目的 観光社会学・観光人類学に関する諸研究を整理し、それらに関する事例を知るとともに、課題となっている論点を理解できる。(DPの「知識・理解」に対応) インタビューや参与観察などの質的調査方法を理解し、調査から得られたデータを発表する力を身につけることができる。(DPの「地域理解」に対応) 発表や論文執筆を通じ、プレゼンテーション力や文章作成能力を身につける。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光学・人類学等の先行研究を理解し、関連する概念を整理できる。 2. 文献の調べ方を習得できる。 3. 研究課題を文章化できる。 4. インタビューや参与観察などの質的調査方法を習得できる。 5. 研究のプレゼン方法を習得できる。			
成績評価の方法と基準 評価にはルーブリック評価表を用い、 ①事前準備・復習、②参加姿勢、③専門知識の習得と活用、④研究作法の習得、⑤他社との協調とゼミへの貢献度などの観点から評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ●選考基準 志望理由書、卒業論文のテーマ、これまでの学修達成度、観光社会学・観光人類学への関心、研究への積極性、思考力・行動力等から総合的に判断します。 ＊詳しくは「二ツ山ゼミ選考にあたっての資料」を参照してください（同資料は説明会か研究室で入手できます） ＊希望者は所定の志望理由書を提出して面接（もしくはグループワーク）を行ってください ●授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの輪読により先行研究を理解するとともに、各自のテーマについて調査・報告・討論を繰り返すことで、卒業論文の骨子を完成させます。 第1回 オリエンテーション＋テーマを決めるにあたって 第2回～第7回 論文作成の基礎技術＋研究課題報告 第8回～第15回 テキスト1 輪読 第16回～第22回 夏休み課題報告 + テキスト2 輪読 第23回～第30回 研究課題報告 ＊フィールドワークやプロジェクトの実施により、変更することがあります。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること（4時間） 第2回～第7回 テキストを読み、内容の要約と自身の考えをまとめてくること。発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと（24時間） 第8回～第15回 発表者：発表準備・レジュメの作成を行うこと。発表者以外：発表内容についてコメントを考えること。全員：テキストを読み自身の考えをまとめてくること。（48時間） 第16回～第30回 報告者：報告準備・レジュメの作成を行うこと。報告者以外：報告内容についてコメントを考えること。全員：テキストを読み自身の考えをまとめてくること。（48時間） 第8回～第30回（フィールドワークについての自学自習）：各自の課題についてフィールドワークを行い、教員に進捗状況を報告すること（48時間）			

年によってはフィールドワーク、合宿などを実施するので参加できるように日程調整をすること。
4年生個別演習との合同発表をすることがあるので、参加できるようにすること。

【授業及び学習の方法】

この科目は対面により実施することを基本とします。
なお状況によっては一部遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

指定しません。適宜授業内でプリント等を配布します。

オフィスアワー 授業終了後に応じます。
研究室(南3号館3階)への訪問時間については授業時間内かSNSで伝えます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・令和5年度個別演習選考基準
演習の成績や卒論のテーマなどを基に判断する。他の演習修了者については、これまでの成績・演習の成績と卒論のテーマ・面接などから判断する。
- ・令和5年度個別演習単位認定方法
課題・演習活動やプロジェクトへの参加度と貢献度、卒業論文制作過程などを総合的に評価する。
- ・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
本文20,000字程度（上限は設けない）。
以下が評価基準となる
 - ・社会的かつ学問的貢献がなされていること
 - ・先行研究をふまえ批判的な議論が展開されていること
 - ・文献やフィールド調査をもとに実証的もしくは説得的な分析がなされていること
 - ・調査手法や分析手法が明記されていること
 - ・独自の視点をもとにした議論・結論が示されていること
 - ・引用方法が正しく的確であること

ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323755) 演習 (古川) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、商品システム論、資源エネルギー論、商品実験		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行います。 商品：商品学の視点から見た商品の適商性に関する研究 環境：商品学の視点から見た循環型社会に関する研究 地域活性化：商品学の視点から見た地域資源の再評価に関する研究 「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学なども予定しています。			
授業の目的 「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基本的な考え方を身につけることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の視点から見た商品の適商性について、基本的な考え方を身につける。 ②商品学の視点から見た循環型社会について、基本的な考え方を身につける。 ③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身につける。			
成績評価の方法と基準 出席状況と取り組み姿勢、レポートにより選考します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。			
【授業計画】 第01回：授業のガイダンスおよびグループ分け 第02回：チームビルディング 第03回：チームビルディング 第04回：フィールドについて事前調査および報告 第05～07回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：5月） 第08回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～11回：第2回フィールド調査（於：担当地域 時期：6月） 第12回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第13～15回：第3回フィールド調査（於：担当地域 時期：7月） 第16回：第3回フィールド調査の報告 第17回：第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第18～20回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：10月） 第21回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第22～24回：第2回フィールド調査（於：担当地域 時期：11月） 第25回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第26～28回：第3回フィールド調査（於：担当地域 時期：12月） 第29回：第3回フィールド調査の報告 第30回：まとめ			
なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。			
【授業方法】 対面で授業を行いますが、新型コロナウイルスの状況により、変更する場合があります。			
教科書の輪読ならびにフィールドワークを行います。 フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。 担当する地域については、ゼミに配属された後に決定します。			

【自学自習のためのアドバイス】

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| (3) 輪読の準備。地域の情報収集と整理。次回の報告に向けて資料作成。 | (5時間) |
| (4) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (5) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (6) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (7) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (8) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (9) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (10) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (11) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (12) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (13) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (14) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (15) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (17) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (18) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (19) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (20) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (21) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (22) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (23) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (24) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (25) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理。 | (6時間) |
| (26) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (27) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (28) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成。 | (4時間) |
| (29) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。 | (5時間) |
| (30) 輪読の準備。 | (2時間) |

* 普段から地域の情報やニュースに興味を持つよう心掛けてください。

教科書・参考書等

教科書は適宜指示します。

参考書は適宜指示します。

オフィスアワー 金曜日3時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。

【2023年度個別演習選考基準】

研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。

【2023年度個別演習単位認定方法】

出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。

【2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313712) 演習 (星野) Seminar 演習と実験によるマイクロ経済学の研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学入門, 経済数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II, 上級ミクロ経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備時間60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 ミクロ経済学の理論をゼミ形式で多角的に学ぶことを通して, 論理的な思考力を養います。 第1に問題演習のテキストを輪読します。問題を解いて発表し質疑応答することを足がかりに, 新しい問題を作って解き発表することにより, 理解を深めます。ミクロ経済学I・IIの授業ではカバーできない市場メカニズムの限界と対策に関わる話題(不完全競争・外部性・公共財・不確実性と情報など)を中心に取り上げます。 第2にミクロ経済学に関する話題をテーマとする出前授業を, 香川県内の高校に向向いて, 全員協力で行います。そのために, テーマに関する専門知識を学び, 高校生にも理解してもらえるような授業教材を作成します。今までのテーマには「需要と供給の教室実験」「共有地の悲劇とゲーム理論」「先延ばし行動の経済学」などがあります。			
授業の目的 ミクロ経済学の概念と分析手法を習得し, 経済現象や経済問題を経済学的に探究する能力を身につけます。さらに, コミュニケーション能力とプレゼンテーションスキルを養います。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学の概念と分析手法を, 例や図を用いて説明できる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。 ・現実の経済現象や経済問題を, 経済学の概念に翻訳して表現できる (DPの「c. 問題解決・問題探求能力」に対応)。 ・わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる (DPの「a. 言語運用能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回の参加態度, 報告内容, 宿題(適宜), レポート課題(夏・春)を総合評価して認定します。無断欠席は厳禁です。場合によっては単位を認定しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・選考基準: 志望理由書と個別成績表に基づき面接を行います。希望者は選考当日までに志望理由書(A4判1枚1200字程度)をMoodleから提出して下さい。選考基準は次の3点です: <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学に興味があり, ゼミ研究の基盤となる授業科目(経済数学入門・ミクロ経済学I・II)を履修しているか。 2. 時間外を含めたゼミ活動(出前授業, 卒論報告会など)に, 主体性と協調性をもって取り組むことができるか。 3. 卒業論文において, ミクロ経済学的なアプローチによる問題探究や問題解決に取り組む意欲があるか。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 			
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 パソコン実習(ワードによる数式入力とエクセルによる関数グラフの表示) 第3回～15回 ゼミ生による発表と議論 第16回 ガイダンス 第17回～30回 ゼミ生による発表と議論			
【授業及び学習の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・個人報告, グループワーク, 全員討論を組み合わせで行います。 ・この科目は全回対面授業を行います。 			
【自学自習に関するアドバイス】 報告担当の回では, 問題解説, 解答, そして+アルファを含むレジュメを十分な時間をかけて用意します(60時間)。さらにゼミでの質疑・議論を踏まえて, 自分の問題作りと解答づくりを行います(30時間)。報告担当でない回でもテキストを予習して疑問点や問題作りの手がかりを用意します(30時間)。なお, 出前授業の準備と実施のために授業時間外に活動することがあります。			

教科書・参考書等

【教科書】武隈慎一（2017）『演習ミクロ経済学 第2版』新世社。（2750円，生協で販売）

【参考書】

- ・山崎昭（2010）『ケーススタディ ミクロ経済学入門 バーチャルゼミナール』日本評論社。
- ・小川一仁・川越敏司・佐々木俊一郎（2012）『実験ミクロ経済学』東洋経済新報社。
- ・武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社。
- ・大垣晶夫・田中沙織（2018）『行動経済学 新版』有斐閣。

オフィスアワー 火曜日4時限目（予定），南キャンパス3号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・令和5年度個別演習選考基準：演習（星野）の履修者はその履修状況によります。それ以外の者は演習（星野）の選考基準に従います。
- ・令和5年度個別演習単位認定方法：参加態度，発表内容，提出課題を総合評価して認定します。無断欠席は厳禁です。場合によっては単位を認定しません。
- ・令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針：字数は原則として2万字以上とします。作成要領の詳細は個別演習の中で説明します。単位認定はテーマに関わる先行研究や理論を踏まえているか，展開は論理的か，論文としての形式が整っているかなどの観点から判断します。なお1年間を通した作成プロセスにおいては途中報告を行い，教員の指導を受けること。指導を受けずに提出された卒業論文は単位を認定しません。

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323740) 演習 (松岡) Seminar 組織マネジメントに関する研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営組織論、経営管理論、経営戦略論、 人的資源管理論A・B、調査データ分析Ⅰ・Ⅱなど	
	履修推奨科目	経営組織論、経営管理論、経営戦略論、 人的資源管理論A・B、調査データ分析Ⅰ・Ⅱなど	
学習時間 講義90分×30回+自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 組織のマネジメントについて、理論的・実証的な研究を行うために必要となる専門知識や調査研究手法が習得できるように指導を行う。文献の輪読に加え、チーム単位での調査研究を実施し、他大学との合同ゼミナール報告会へ参加することを通して、当該分野への知見を深める。			
授業の目的 卒業論文の作成に向けた準備段階として、専門的な知識と研究遂行や論文執筆に必要な基本的なスキルを習得する。本年度のゼミでは、組織マネジメントについて、リーダーシップや管理者行動の観点から検討する。文献輪読や討論に加えて、チーム単位での共同研究を行い、得られた成果を他大学との合同ゼミナール報告会で報告・討論することで、学習の成果と課題を確認する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. リーダーシップや管理者行動の諸理論について説明することができる(学士課程のDP「b: 知識・理解」に対応) 2. チーム単位で組織のマネジメントに関する調査研究(既存研究のレビュー、調査の設計、データの収集・分析、研究報告および報告書の執筆)を実施することができる(学士課程のDP「c. 問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 専門分野に関わるレジユメないしレポートの作成、討論、および、プレゼンテーションができる(DPの「a: 言語運用能力」に対応) 4. 他者の研究成果に対する建設的な批評を行うことができる(学士課程のDP「a: 言語運用能力」および「c. 問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 受講態度(準備状況および討議への貢献度など)、宿題、チーム研究の進捗状況により総合的に評価する。評価にはルーブリック評価表を用いる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 以下の3点を満たすことができる学生を受け入れる。 1. 本演習で取り扱うテーマや研究方法に関心があること 2. ゼミ活動に積極的に取り組めること 3. 他の学生との協働作業に対して責任を持って意欲的に取り組めること なお、応募者多数の場合には、面接による選考を行う。			
【授業計画並びに授業及び学習の方法】 前期: テキストおよび研究論文を輪読し、専門的な知識を習得する。また、インタビュー、アンケートなどの調査分析手法についての理解を深めていく。夏休み前にチーム分け(1チーム4～5名程度)を行い、チームごとに研究テーマを設定して、実証研究に着手する。 後期: チーム単位での研究の進捗報告と討論を中心に進める。この共同研究の成果は、12月中旬頃に他大学と合同で実施するゼミナール研究報告会において発表した上で、1月末をめどに報告書にまとめる。なお、共同研究の実施時には、通常の演習時以上に多くの準備時間を割くことが必要となるので留意してほしい。1月以降は、個々の卒論テーマについての研究を進める。			
* 対面での授業を基本とする。 * 毎回の授業あたり各2時間程度の準備学習と事後学習が必要となる。 * 後期のプロジェクト研究実施期間中は個人での学習に加え、チームでの共同作業が必要となる。 * 合同ゼミは5大学で実施する。12月中旬の土曜日に対面での実施を予定しているが、状況によってはオンラインでの開催となる。対面実施の場合は開催校までの往復の旅費の負担が必要となる。			
<おおよそのスケジュール> (前期) 第1回 インTRODクシヨN 第2回～第10回 文献輪読 第11回～第15回 研究計画の作成・調査法指導			

(後期)

第16回～25回 プロジェクト研究 (進捗報告)
第26回 3・4年生合同セッション
第27回～30回 卒論作成に向けた指導

授業の基本的なスタイルは、報告者によるプレゼン→全体での討議→まとめと解説という流れを予定している。演習参加者は、事前に文献や資料に目を通した上で、討議に備えて自分なりに論点を整理したメモを作成することが求められる。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、討論をリードすることが求められる。また、全員、授業終了後に授業を振り返っての事後レポートを作成・提出することが求められる。

*演習活動の一環として、学外での調査活動等を伴うため、保険 (学研災・学研賠あるいは同等のもの) 加入をしておくことが受講の条件となる。

教科書・参考書等

開講時に候補となる教科書・論文を示し、受講生と相談の上決定する。
参考書については、適宜、紹介する。

オフィスアワー 月曜5限目、南キャンパス7号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【令和5年度個別演習選考基準】

- ・演習への取り組み状況および研究計画書により選考する。
- ・他演習からの移籍の場合には、研究計画書および面接により選考する。

*アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析ⅠおよびⅡを履修済み、あるいは履修予定であること。

【令和5年度個別演習単位認定方法】

- ・卒業研究の進捗状況およびディスカッションへの貢献度に応じて単位認定する。
- ・評価にはルーブリック評価表を用いる。

【令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。評価にはルーブリック評価表を用いる。

- ・企業経営に関連した研究テーマが選択されていること
- ・既存研究を踏まえた上で書かれていること
- ・独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること
- ・研究論文作成のための様式にのっとり書かれていること
- ・分量の目安は20,000字以上

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 333785) 演習 (水野) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	異文化間コミュニケーション論, 外国語演習 (英語)	
	履修推奨科目	観光学概論, グローバル社会概論, 社会調査法	
学習時間 ゼミナール90分 × 30回 + 自主学習, 現地フィールドワーク			
授業の概要 海外から日本への国際観光 (インバウンド観光) 振興は, 現在日本の重点政策の一つとして掲げられており, 政府はデジタル・ジャパン・キャンペーン (V J C) という広報活動を国内外で積極的に展開している。これまで観光庁, 国際観光振興機構 (J N T O) などを中心となり, 官民一体で国際観光振興に取り組んできており, 特に訪日外客 (日本を訪れる外国人観光客) 数は2018年には年間3000万人を突破した。パンデミックにより現在は外国人観光客は激減しているが, 観光による地域活性化と国際理解と交流を進めるために, アフターコロナにおいてはこれまで外国人旅行者が訪れることの少なかった地域も, 国際観光の受け入れに本腰を入れていく必要がある。 本演習では, グローバル社会についての知識や異文化の理解をベースとして, 地方を訪れる外国人観光客を増やすにはどうしたらいいかという問題について考える。自分たちにも実行可能な課題を見つけ出し, それに実際に取り組むことによって, 今地域が抱えている諸問題の解決方法についても実践的に学ぶ。			
授業の目的 本演習では, グローバル社会についての知識や異文化の理解を深めたうえで, 地域へのインバウンド観光の課題に取り組むことによって, 地域が抱えている諸問題の解決方法を実践的に学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) グローバル社会の知識を身に付け, 異文化を正しく理解できる。 2) インバウンド観光振興についての問題探求能力を身につける。 3) 問題解決のために英語および日本語での自己表現と他者理解のためのコミュニケーション能力を習得する。			
成績評価の方法と基準 およそ次のような割合で各項目を総合し, 評価する。 発表や討論, フィールドワークなどゼミナール活動への積極的な参加50%, 授業外での英語自主学習25%, 期末レポート25%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【演習選考基準】 履修科目 (英語, 観光関連科目) の成績および面接により選考します。			
【授業計画】 第1回～第10回 香川の観光資源についての英語表現を学ぶ 第11回～第15回 外国人観光客アンケート調査の計画と準備 第16回～第25回 世界の国々の政治, 経済, 社会, 文化について学ぶ 第26回～第30回 期末レポート作成に向けたプレゼン (討論) この間, 適宜フィールドワークを行う。			
【授業および学習の方法】 前期では, 通訳やガイドの活動に必要な英語の学習も行う。後期は各自の課題について, ゼミの時間や場所を超えて, 自主学習に積極的に取り組む必要がある。			
教科書・参考書等 プリント教材を配布。 参考書は随時指示します。			

オフィスアワー

月曜 4 時限 (幸町南 2 号館 3 階 水野研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【演習選考基準】

土日を含めてゼミの時間外のボランティア活動もあるので、まずは本ゼミナールの活動に積極的に参加をしたいという意志と行動力のある学生を優先する。さらに、英語通訳ボランティアとして活動するための最低限の英語力を有すること（不足部分はコミュニケーションに対する意欲で補えること）が望ましい。

【令和 5 年度個別演習選考基準】

「演習」における達成目標に到達していることを条件とする。

【令和 5 年度個別演習単位認定方法】

個別演習への出席および参加態度、卒業論文への取り組みにより評価する。

【令和 3 年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

日本語の場合 20,000 字以上を最低条件とし、内容とオリジナリティにより評価する。

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 333790) 演習 (宮島) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	アジア社会論	
	履修推奨科目	アジア社会論、アジア関連の講義および外国語	
学習時間 講義90分×30回 + 自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。 <p>コアとコリアンを主としつつ、広くアジア（日本を含む）への関心をゼミ共通の大きなテーマとする。(1) エクセルのグラフ作成機能やピボットテーブルを用いて、アンケート調査結果についてクロス表作成を含む図表化を行い、それを説明・分析する文章を書く練習、(2) インタビュー調査を行い、それを研究目的に照らした質的資料として用いて、説明・分析をする練習、(3) 学術論文の執筆ルール、などを体験的に学ぶ。その過程を経て、受講者がそれぞれ興味を寄せる具体的な関心テーマを設定し、その関心を深めていき、報告する。その発展の形で、最終的には個別演習で卒業論文がまとまるようにつなげる。</p>			
授業の目的 卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 演習テーマに関するレジュメおよびレポートを書くことができる。 2. 演習テーマに関するプレゼンテーションができる。 3. 演習テーマに関する討論ができる。 4. 1年間の学習の集大成としてゼミ論を書くことができる。			
成績評価の方法と基準 毎回の演習への参加、研究発表、提出物などを総合して認定する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・授業計画 (1) これまでの宮島ゼミの学生たちが書いた卒論について書評を行う (2) 量的データ、質的データの説明・分析や、学術論文の執筆ルールなどを体験的に学ぶ (3) 自らの関心に基づいて自身の研究テーマを設定し、順番での報告を重ねる。学生間で質疑応答を行う。 (4) 3年次の1年間のゼミ学習の集大成として、3年次ゼミ論をまとめる。主張や説明を読み手に理解させる構成となっているかどうか、論文としてふさわしい語彙・文体かどうか、特に無意識のうちに話し言葉で書いている学生が少なくないので学生間で指摘しあい、意見交換を行う。 (5) 他ゼミとの合同で、研究報告会などの合同ゼミ活動を行う。聴衆からの質問や意見を受けて対応する。			
・選考基準 選考では面接を実施し、(1) 志望動機、(2) 現時点でどのようなテーマに関心を持ってこのゼミに参加したいか、を質問する。拙くてもかまわないので(テーマ変更可能である)、現時点で自ら進んで調べてみたいと思う関心やテーマがある学生を歓迎する。関心の地理的範囲は日本を含むアジアとする。 過去の宮島ゼミ生の研究テーマは研究室まわりの際に紹介するが、一例として2022年3月卒業生の卒論は、以下のとおりである。 「SNSが若者に与える影響」 「ヘアスタイルと理美容業界に関する研究」 「日本におけるeスポーツの展開と展望」 「日本におけるバスケットボールの人気」			

<留意点>

・ゼミ生は担当教員の講義科目「アジア社会論」(前期、金4)を3年前期の時点で履修すること。スムーズなゼミ運営のためにゼミ生全員が同じ知識を獲得している状態にする。理由があつて履修できない学生は面接のときに申し出ること(卒業のために必ず履修しなくてはいけない科目と重複する場合は、そちらのほうを優先して履修することを認めます)。この科目のテキストを、上記の「授業計画」のうちの「(2) 体験的に学ぶ」際のテキストとしても使用する(引用の仕方、注のつけ方をゼミで説明しても、それを守らずに、自分勝手な、適当なつけかたをする学生はかなりいる。量的データの図表化の作業で、すべて円グラフ、すべて棒グラフにするなど、どのようなときにどのような図表にするのかを理解していない学生もまれにいる)。

・(特に報告担当時の)無断欠席・遅刻は厳禁とする。急病、急用等やむを得ない場合(就職活動理由を含む)は事前に連絡すること。「今日の報告準備が間に合わず、少し遅れていくと先生に伝えておいてほしい」と他のゼミ生に伝言を頼み、他のゼミ生を待たせるような行為(全体への迷惑)は禁止する。繰り返される場合は演習、個別演習の評価は不合格(不可)とする。

・自分以外のゼミ生の発表をよく聞き、自分の報告時に反映させること。他のゼミ生の報告から学ぶ姿勢に欠ける(=聞いていない)と、いつまでも研究スキル、執筆スキルが身につきません。自分の卒論は自分が書きあげなくてはならない、ということを3年次から自覚してください。

教科書・参考書等

以下をゼミでまとめて団手で手配するので個人で購入する必要はない。宮島美花『中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活』(国際書院、2017年)。

オフィスアワー 毎授業時間後に質問を受け付ける。オフィスアワーはスケジュールが確定次第伝える。ただし、不定期の会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し出て約束すること。MOODLEのメッセージ機能を利用して、随時、教員に相談したり、面談の申し込みを行うことができる。宮島研究室は5月に移転予定のため、面談は研究室以外の場所で行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・個別演習選考基準

演習での取り組み状況、研究を行って論文を執筆する基本的な技能と能力、協調性。他の演習履修者については、面接を実施して成績(含・演習)や本人の研究テーマなどを勘案し決定する。

・個別演習単位認定方法

ゼミ活動および卒論への取り組みの様子などを見て判断する。

・卒業論文の作成要領と単位認定方針

2万字程度を目安とする。(1) 卒論としてふさわしい問題意識・研究目的の設定、(2) 適切な資料・文献の使用(3) 適切な語彙・文体での表現力(4) 長文を展開する構成力、を見る。

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323748) 演習 (宮脇) Seminar エンパワーメントと管理会計情報	科目区分 必修科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	管理会計および経営学関連の授業科目	
	履修推奨科目	会計学・経営学関連の授業科目	
学習時間	演習90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間 + α)		
授業の概要 このゼミナールの目標は、戦術的ピリオダイゼーション理論に基づいたゼミナール活動を通して、個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要な力、就職活動で求められる力、そして、ゼミナールの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係にあり、無関係ではありません。みなさんには、「社会に出て生きていく」ことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力、覚悟が求められています。			
授業の目的 社会と大学とゼミナールをフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席（原則：毎回）、参加態度、ファイナルプレゼンテーション (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス <選考について> [選考基準] (1)向上心（研究テーマに関心があり、自己のコンピテンシーを高めたいもの） (2)Attractiveness（素直さ、誠実さ、ユニークさなど、一緒に時間を過ごしたいと思えるもの） (3)明るく積極的にゼミ活動に参加できること (4)これまでの生活態度と成績（参考） [選考方法] 面接 ※将来の就職活動時の体験学習もかねてエントリーカードを書いて提出してもらいます。 [育てたい人物像] まじめに粘り強く何事に対しても一生懸命明るく前向きに取り組む姿勢を持ち、「自律」できる人を育てたいと思っています。 ※皆さんには将来、選択できる人生を歩んでもらいたいので、それなりの宿題もあり、人と関わりながらプロジェクトを行う機会を設けています。そのため、向上心を持って努力を積み重ね、しっかりと時間をかけて忍耐強く取り組もうとする「資質」を持った人たちが集まっています。 [アドバイス] ※自分が成長するチャンスは、「今」にしかありません。自分の試みが自分の将来に、そして周りの人たち・社会に影響を与えます。バタフライ効果は、自分で羽ばたくことから始まります。 ※人は周りの環境に影響を受けます。例えば、夏に暑くなると、自然に汗をかいて体温を調節します。さらに、人は、仮想世界である映画などを見ていても、手に汗握る状態となります。つまり、人は現実世界だけでなく仮想世界ともフィードバック関係を築くのです。したがって、あなたが自分の将来のためにどのような環境を想定・選択するかで、成長度合いは変わります。なぜなら、人は自然にその環境とフィードバック関係を結ぶからです。 ※社会へ出れば、どんな環境でも「やり抜く力（GRIT）」が求められます。この力は、社会に出て働き活躍することから逆算して与えられる宿題や体験などの戦術的負荷を乗り越えながら身に付けていく力です。残念ながら、現実からかけ離れたぬるい環境ではなく、実際に働く時と同じような環境（例えば、制約条件がある中で知恵を絞り、大人と交渉し、様々な人と協働して物事を実現させていくことなど）でしか磨くことはできないのです。例えば、ままごとだけでは（しないよりはした方がいいですが）、実際の料理を作ることはできませんし、一流の料理人になることもできません。 ※私たち人間は、「人」の「間」に存在意義を持つ生き物と考えられるので、人との関わりの中で「長期的な信頼関係」を築くことができる人間性を備えることは大切です。礼節・義理・人情を忘れずに。			

<授業計画ならびに授業および学習の方法>

※全回対面授業です。

1. 演習：戦術的ピリオダイゼーション理論に基づき、年間を通して下記の項目を学習していきます。

(1) “Show Time”形式のプレゼンテーション能力・資料作成能力（パソコン基本技術含む）を身に付ける。

(2) グループディスカッション(1グループ4人程度)を通して議論の展開力を身に付ける（基礎）。

《専門知識》管理会計、マネジメントコントロールおよび業界分析

《教養知識》金融、世の中のしくみ、モノの原価および働く理由・意味

(3) カマタマーレ讃岐との共同プロジェクト・ボランティアに参加し、主要メンバーとして企画・折衝・運営を行い、様々な人と協働して物事を進めていく力を身に付ける。

(その他)

・新聞記事を用いたグループディスカッションとディベート能力を身に付ける（応用）。

・「Business Game（完全版）」を用いて、経営活動の流れと会計情報の関わりを擬似体験する。

・様々な分野の会社に勤める企業人（OBや色々な業界・職種・職位の人）と意見交換し、「働く」ことを見つめる機会を持つ。

・就職活動演習（教養理解度クイズ<授業>&エントリーシートの書き方および面接訓練など<課外>）

※毎週ゼミの時間に「1週間の出来事」と題し、全員にお話をしてもらいます。わいわいとした雰囲気の中で、お互いをよりよく知る機会になっているとともに、話すあるいは表現する練習の場ともなっています。

2. オプションとしても希望があれば、“Work Shop”では簿記を、“ELP(Effective Listening Practice)”では英語のリスニングを学習することができます。また、“ENJOG”ではウォーキングによる体力作りを行います。

3. その他（補足）

・年4回、行事（夏突入コンパ・忘年会・追いコン・秋合宿）があり、毎回OB・OGも来て、親睦を深めるとともに、行事の準備や運営など、物事を進める手順などを学ぶ機会ともなっています。

・4年生の夏休み（に限りませんが）には、希望者には1ヶ月ほどの短期海外留学を勧めています。学生の時にしかできない違う文化圏での生活を通して、自分を、そして日本を見つめ直すよい機会になっていると思います。

[自主学习に関するアドバイス]

(第1週～第30週) グループディスカッションの準備・改善（40時間+α）

(第1週～第30週) “Show Time”形式のプレゼンテーションの準備・改善（40時間+α）

(第1週～第30週) カマタマーレ讃岐との共同プロジェクトの準備・運営（40時間+α）

教科書・参考書等

随時指定

オフィスアワー 随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※人生には、受験勉強のような必勝法はありません。楽しく人生を過ごしたいのであれば、それなりの能力やマナー、人柄などの要素が含まれている「人間力」を兼ね備える必要があります。そうした人間力は、一朝一夕には身に付きません。なぜなら、時間をかけて色々なことに一生懸命に取り組み、自分が体験したことが少ないような場面で揉まれることでしか、人の器は大きくならないからです。もし、あなたたちへの優しさが「楽」な道を歩ませてあげることであればそうしますが、2年後に進む現実社会にはそんな道はどこにも存在していないのです。時間もかかるし、うまくいかないことも多いかもしれませんが、その分、得られた財産の中身は何ものにも換え難く、見える景色や俯瞰できる景色が違ってくることで、より豊かな人生を送ることができるようになると思います。

[令和5年度個別演習選考基準]

演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接

[令和5年度個別演習単位認定方法]

(1)出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動

(2)卒業論文

[令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針]

☆卒業論文（20,000字以上）

(1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの

(2)学術的な貢献があり、かつクリエイティブでオリジナリティーに溢れるもの

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313724) 演習 (持田) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習(報告・授業準備等60時間+課題60時間)			
授業の概要 この授業では、テキストを輪読しながら知識を身につけ、理解を深めていきます。適宜、マクロ経済学の復習も行います。 受講生の希望があれば、テキスト報告以外に就職活動に備えてのグループディスカッションや、各自が関心を持った新聞記事のプレゼンなども実施します。 授業は3、4年生合同のゼミナール形式で行う予定です。毎回、授業の最初に報告担当のグループがテキスト+αの内容について調べて発表し、その後、その日の報告内容に沿って参加者全員で議論します。また同時に、報告者の発表内容についてグループワークで討議し、受講生同士が互いに教え合うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をはかっていきます。前期から後期前半くらいまではテキストの内容全般について広く学び、後期の後半以降、受講生の興味・関心分野を徐々に絞って学習し、個別演習への道筋を形成していく予定です。			
授業の目的 テキストを輪読し、議論しあうことで現代社会や経済学に対する理解を深めると同時に、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○ テキストの内容を正確に読み取り、プレゼンテーションとして、他者にわかりやすく伝えることができる。 ○ 人によって意見がわかれる可能性のあるポイントを発見し、複数の視点からの対立する意見・考え方を自ら勘案して、述べることができる。 ○ 現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。			
成績評価の方法と基準 ルービック評価表を用い、フィールドワーク、課題レポートを含む授業全般への取り組み態度を見て総合的に判断します。卒業生も含めての卒論報告会を年に2回、土曜日を使って実施しています。事前に受講生全員の日程を調整して、開催日を決めます。この会への出席は、単位取得のための必要条件です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
『選考基準』 この「演習」への参加意欲があり、下記の条件を満たす人を募集します。 ・他の受講生と協力して、発表準備のできる人 ・他の受講生の発言・意見を尊重しながら、自分の意見についてもしっかりと発言できる人 or できるようになりたいと思っている人 ・遅刻・無断欠席をせず、課外活動を含めたゼミ活動全般への積極的参加など、スムーズな「演習」運営に協力&貢献できる人 選考は面談内容に加え、下記の提出物を参考に決定します。 ◎A4レポート 2枚程度 テーマ、締め切りについては、研究室回りの時に指示します。(研究室回りを欠席した人も選考前に提出が必要です。未提出の場合、ゼミへ受け入れることができません) ◎成績表(最新のもので、前年度までの取得総単位数が下段に掲載されているもの)			
『授業計画並びに授業及び学習の方法』 1. 授業のガイダンス 2～13. テキスト報告 14～15. 前期のまとめ 16. 後期のガイダンス 17～26. テキスト報告 27～28. 後期のまとめ 29～30. 卒論テーマ報告会			
受講生の状況等に応じて、上記の計画が変化することもあります。			

この科目は、基本的には「対面」方式で実施予定です。
ただし、感染状況や大学の方針によっては、「遠隔」で実施する回もあります。

教科書・参考書等
初回の授業で決定します。

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
運営方針の詳細は研究室回りの際に説明しますので、履修を希望する人は出席して下さい。

2023年度個別演習選考基準
「演習」の履修状況を見て判断します

2023年度個別演習単位認定方法
「演習」と同じく、ルービック評価表を用いて成績評価を行います。

2023年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
授業中に指示します

ナンバリングコード B4ECN-bceE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313708) 演習 (姚) Seminar 日中経済の実証分析	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	アジア経済論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 演習の前半では、日中経済に関するテキストの推薦と関連資料を適時に配布し、ゼミ生と相談しながら研究題目の選定を行う。研究題目を選定する際に日中国際観光、金融証券、環境とエネルギー、人口と労働力などに関連する研究を勧める。後半では、統計分析の視点でゼミ生各自の関心のある日中経済発展に関する資料の収集と研究報告を指導する。必要に応じてデータの収集・整理・加工などの基礎知識と統計処理手法を補講する。 海外研修を実施する予定。研修先は上海・西安・アモイ・香港・台北から選定する。			
授業の目的 経済活動が加速的にグローバル化している中、日中経済発展の現状と国際貿易交流などを正確に再認識する。豊富な地域経済知識を身に付け、国際的に活躍できる人材になる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. アジア経済と社会情勢を客観的に認識することができる。 2. 国際的な経済活動のなかで適切な行動をとることができる。 3. 統計分析手法を用いてアジア経済問題を解析できる。			
成績評価の方法と基準 研究討論の参加状況 (25%) とレポート (50%) 及び出席 (25%) により総合判定。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 選考基準：日中経済の実証分析に興味がある；積極性と協調性があり、無断欠席しない。 授業形態：対面により実施することを基本とする。状況によって数回Zoomによるオンライン式 (適時周知する)。 授業計画並びに学習方法： 第1回 ガイダンス 第2～3回 予備知識の整理・学習 第4～6回 日中経済に関するテキスト・研究論文・研究報告の討論 第7～15回 研究報告・討論 第16～17回 日中経済に関する研究題目選定 第18～21回 研究資料の収集・整理・報告 第22～27回 研究発表・討論 第28～29回 卒論テーマ選定 第30回 まとめ 学習方法： 1. 実証分析に必要な知識を勉強する。 2. 関心度の高い日中経済に関する研究題目を選定する。 3. 研究資料の収集・整理に努力し、積極的に研究発表を行う。 4. 研究発表はPPTなどを用いてプレゼンテーションを行う。 5. 研究発表の結果を生かし、卒論テーマ選定する。			
教科書・参考書等 ゼミ生と相談するうえ決定する。			
オフィスアワー 火曜日4校時、幸町南7号館3階、姚研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習選考基準：単位の履修状況と参加態度などにより、総合的に判断する。 個別演習単位認定方法：出席状況、研究討論とレポートによる総合判定。 卒業論文の作成要領と単位認定方針： 卒業論文はワープロによるものとし、図表を含めて2万字以上とする。 出席状況と研究討論の態度などを中心に、卒業論文の完成度を参考するうえ、総合的に判断する。卒業論文の詳しい作成要領などについては卒業論文指導時に説明する。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323733) 演習 (安井) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険, 保険システム論等	
	履修推奨科目	リスクと保険, 保険システム論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
<p>授業の概要</p> <p>演習においては, 保険に関するテキストを輪読することで, 保険の基礎知識の取得をめざす。個別演習においては, 演習における研究を基礎にして, 各自が選定したテーマについて報告・討論を行い, 卒業論文を作成する。</p> <p>個別演習においては, 卒業論文の作成が中心となる。毎回, 担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討論を行う。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>卒業論文に必要な専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につける。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<p>本演習のテーマに関するレジュメないしレポートを書くことができる。</p> <p>本演習のテーマに関するプレゼンテーションができる。</p> <p>本演習のテーマに関する討論ができる。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>レジュメの内容, 発言内容, 授業への参加状況, レポート提出状況・内容を総合して評価する。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態 基本的に対面型式で行う。状況が変化した場合には別途指示する。 ・選考基準 前年までの成績を勘案し, 次の点を考慮して選考する。 ゼミナールでの研究に意欲的に取り組むことができるか。 ゼミナールの活動全般に積極的に参加できるか。 協調性があるか。 そのほか, 面接時の注意を説明会で説明するので, 必ず確認してから面接に臨むこと。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前期はテキストの輪読を行う。毎回決められた報告者が報告し, 全員で討議を行う。もちろん報告者はレジュメを作成しておかなければならない。なお, 場合によっては, ゼミのテーマに関連する簡単な英文を読んでもらう。後期は輪読と並行して, 各自が選定したテーマについても報告してもらう。 ・自学自習について 毎回, 何らかの課題があるので, 熱心に取り組むこと, 			
<p>教科書・参考書等</p> <p>教科書 (予定): 大谷孝一他[2012]『はじめて学ぶ損害保険』有斐閣, 2500円程度。 参考書は適宜, 指示する。</p>			
<p>オフィスアワー 時間: 演習開講日の3時限とする。ただし, 参加できない演習生がいる場合には, 全員参加できる日時に変更する。 場所: 安井研究室</p>			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・毎回欠かさず出席すること。万一欠席する場合にはその理由を提出すること（提出すれば出席と同じ扱いになるわけではない）。

・2020年度個別演習選考基準

演習における研究活動を考慮して、研究意欲の高い学生を受け入れる。

・2020年度個別演習単位認定方法

報告、授業への参加状況、レポート、卒業論文を総合して評価する。

・2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。

論理展開、説得力、独創性などの観点から総合的に評価する。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 323770) 演習 (山口) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目	企業倫理、経営学史	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×30回＋自主学習120時間			
授業の概要 本ゼミでは、輪読、発表、文章作成、グループワーク、議論などを行うことで、4年次に卒業論文を作成するための基礎力を身につけます。学びのテーマは、経営学の分野であれば何でも構いません。自分が興味のある分野を選んでください。			
授業の目的 卒業論文の作成に必要な専門分野の知識、論理的思考力、文章力を身につけること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①現実的な企業実践と抽象的な理論とを結び付け、自分の力で新たな課題を発見できる。 ②自分の考えを文章や口頭で論理的かつ簡潔に説明できる。 ③他者の発言の内容を正確に理解し、それに対する自身の見解を述べるができる。 ④自分の学びたいテーマに関連する知識を体系的に会得できる。 ⑤研究に必要な専門文献・資料にあたるができる。			
※DP (ディプロマ・ポリシー) との対応……上記の到達目標のうち、①はDP-c (問題解決・課題探求能力) に、②③はDP-a (言語運用能力) に、④⑤はDP-b (知識・理解) に対応。			
成績評価の方法と基準 ゼミ参加の姿勢、研究の姿勢、課題の達成度などから総合的に判断します。 評価には、ルーブリック評価表を用います。 無断遅刻・無断欠席をする者には単位を認定しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 面接によって選考します。 主な判断基準は以下の3点です。 ①学習意欲・参加意欲 ②これまでの履修状況・大学生活 ③責任感 なお、以下に該当する者の入室は認めません。 ・ネット上で反社会的な発信を行っている者 (誹謗中傷など) ・人種、国籍、宗教、LGBT、障害、疾病などに関する差別的な言動が見られる者			
【授業計画】 4-7月 ・テキストの輪読 ・高大連携の準備 10-2月 ・卒論のテーマ探し ・構想発表 ※具体的なスケジュールは相談しながら決めましょう。 ※ゼミは基本的に対面で行います。状況次第では遠隔 (ZOOM) になる可能性もあります。			
【学習の方法】 報告担当者は、パワーポイントの作成など報告の準備をします。 輪読の回では、発表者以外の参加者はしっかりと文献を精読し、グループワークや質疑応答に備えてください。			

教科書・参考書等

みんなで相談して決めましょう。

オフィスアワー 水曜日10:30-11:30

他の曜日・時間が良い場合には調整しましょう。

急な訪問には対応できないので、事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

心から楽しいと思えるテーマを見つけてください。

【令和5年度個別演習の選考基準】

- ・本演習の修了者…基本的に受け入れます（例外あり）。
- ・他演習の修了者…面接によって判断します。

【令和5年度個別演習の単位認定方法】

研究の姿勢、報告の内容、卒論の内容から総合的に判断します。

【令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

本文20,000字以上、日本語で執筆すること。

問題設定に、既存文献・資料にはない独自の視点が盛り込まれていること。

評価には、ループリック評価表を用います。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 333976) 演習 (山崎) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目	観光産業論、マーケティング論A・B、 地域活性化論、まちづくり論	
	履修推奨科目	地域調査法、観光学概論、観光政策論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 観光は、旅行者の心理・行動や観光対象となる地域資源を起点に語られることが多いが、現地を体験せずに訪問を決定せざるをえない観光では、様々な媒体により意識的・無意識的に提供される情報が、旅行意欲の喚起、目的地の決定、体験の満足などにとって重要な要素となっている。 本ゼミでは、地域資源の魅力や特徴を表現することで消費者の心理・行動を観光へと向かわせる様々な媒体の存在に着目する。各自が研究テーマとする媒体を設定し、それぞれの媒体の観光における役割、効果、課題などを分析した上で、旅行者と地域の双方にとって有効な観光媒体のあり方(手法)について検討する。			
授業の目的 広い視点で旅行者・観光媒体・観光対象からなる観光現象を理解する【b】と同時に、自律的に課題を設定し、調査・分析・考察・実践を行える【c】ようになることを目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光に関する様々な要素の関係性を図示できる。 2. 観光現象の特徴や傾向を詳細に説明できる。 3. 観光振興に資する具体的な手法を提案できる。			
成績評価の方法と基準 ①授業・課題への取り組み姿勢(50%)と②課題成果物(50%)の総合評価とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 自分の研究テーマ・対象を定め、調査・分析・考察を行い、結果を調査報告書としてまとめるとともに、得られた結果を踏まえた具体的アウトプットを制作、もしくはそれに資する知見を得ることが望ましい。 基本的に授業時間は報告・議論の場とし、各自が自律的に授業時間外で作業をすすめることを求める。			
●授業計画 前期：テーマ探し、調査実施のためのトレーニング⇒各自のテーマ決定、夏休み期間の調査計画の作成 夏休み：旅の図書館・国立国会図書館への資料収集合宿(予定) 後期：各自のテーマに基づく資料収集・フィールドワーク、分析・考察、アウトプットの検討・制作など			
【「調査テーマ⇒アウトプット」のイメージ】 ・文化庁「日本遺産」認定ストーリーの観光活用の実態⇒高松市の歴史・文化ストーリーの作成と活用方法の提案 ・観光関連口コミサイトの記載内容の特徴分類⇒口コミマナー啓発パンフレットの制作 ・個人の旅行記からみる観光体験の変遷と現代観光の特徴⇒自分の旅行記ホームページの制作 ※上記はあくまで例であり、学生からのユニークなテーマへの取り組みを歓迎する			
●選考基準 面接などにより各学生の関心や特性を把握し、メンバー間のバランスなどを加味して選考する。			
【このゼミに向いている人】 (情報の)整理整頓が好きの人、数に敏感な人、語彙が豊富な人、発想が豊かな人、個性的な人、手を動かして考える人、「いつの間にか学んでいる」経験がある人 ※上記は担当教員の特徴(教員と共通点があることが学修の進展に有効であると見込まれるため)			
※この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

教科書・参考書等

教科書・参考書：特になし。適宜授業内で指示。

オフィスアワー 授業終了後に対応する。

山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合がある。変更については授業内で適宜連絡する。
- ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

【令和5年度個別演習選考基準】

演習への取り組み状況ならびに研究テーマにより判断する。

【令和5年度個別演習単位認定方法】

各自の調査・分析への取り組み姿勢と調査・分析の成果の総合評価とする。

【令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

自らが設定したテーマに基づく調査や分析・考察の結果を20ページ程度にまとめる。ページ数は目安であり、課題設定の独創性・新規性、内容の充実度、主張や結論の妥当性を重視する。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 313729) 演習 (山ノ内) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 統計学入門、統計学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、 統計学入門、統計学	
学習時間 講義90分×30回+自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 本講義では経済学の応用分野を学び、基礎的なミクロ経済学やマクロ経済学の理論を活用する方法を扱う。また、データ分析を通して理論が実際の経済活動や経済現象とどのように関わっているかを示す。具体的な方法として、テキストの輪読と議論、データ分析演習を授業の中心とする。			
授業の目的 本講義は卒業論文を作成するための知識や技術の習得を主な目的とする。まずは経済学の応用分野を学び、基礎的なミクロ経済学やマクロ経済学をどのように活用すればよいかを理解する。次にデータ分析を学び、理論と実際の経済活動や経済現象の関係を明らかにする方法を身につける。最後に分析を論文にまとめ、学術的な内容を適切な形式で表現する訓練を行う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なミクロ経済学やマクロ経済学の理論が応用できるようになる。 ・経済に関するデータを自身の手で適切に処理できるようになる。 ・分析を通して培った自身の見解を学術的な形式で表現できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 演習での報告や夏期課題、ゼミ論文などによって総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 選考は面接と成績に基づいて行う。2年間の標準的な学習により一定の基準(担当教員からのメッセージ欄参照)を満たす卒業論文が作成できると判断できれば受け入れる。面接には成績表を持参すること。自身の学びたい分野を事前に確認しておくことも推奨する。			
【授業の方法】 授業は基本的に輪読形式で進める。基本的にスライド作成は不要であり、担当者は板書で説明しながら報告すればよい。ただしテキストは時間をかけて精読し、不明な点は事前に調べなければならない。また、データの分析方法に関する演習を数回予定している。この科目は全回対面授業の予定だが、場合によっては一部を遠隔授業に変更する可能性もある。			
【授業計画】 第1回：イントロダクション 第2回：基礎知識の確認 第3-6回：データ分析の基礎 第7-15回：応用経済学に関するテキストの輪読 夏期：ゼミ合宿(夏期課題の報告) 第16-20回：データ分析の応用 第21-30回：応用経済学に関するテキストの輪読・ゼミ論文の進捗報告			
【自学自習に関するアドバイス】 輪読のテキストは丁寧に読むこと。また、データを扱った場合は、自身の手で分析を再度行って手順を確認することを推奨する。			

教科書・参考書等

受講生の関心に合わせて決定する。担当教員の専門は貿易論だが、開発経済学、労働経済学、産業組織論、マクロ経済学（生産性分析、企業動学など）、国際金融論、都市経済学、金融論やそれらに準ずる分野であれば対応する。以下に例を示す。

データ分析

- ・伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、光文社、2017年、780円＋税
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする12のレッスン』、有斐閣、2017年、2,300円＋税
- ・安井翔太著、株式会社ホクソエム監修『効果検証入門 正しい比較のための因果推論/計量経済学の基礎』、2020年、技術評論社、2,680円＋税
- ・西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮『計量経済学 (New Liberal Arts Selection)』、有斐閣、2019年、4,000円＋税

応用経済学に関するテキスト（例）

- ・岡田羊祐『イノベーションと技術変化の経済学』、日本評論社、2019年、2,800円＋税
- ・小田切宏之『産業組織論 理論・戦略・政策を学ぶ』、有斐閣、2019年、2,700円＋税
- ・川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』、有斐閣、2017年、2,800円＋税
- ・ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳『国際貿易 グローバル化と政策の経済分析』文真堂、2020年、3,000円＋税

オフィスアワー 質問等は金曜5校時に南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【令和5年度個別演習選考基準】

1年間の標準的な学習により一定の基準を満たす卒業論文が作成できると判断できれば受け入れる。

【令和5年度個別演習単位認定方法】

基本的な評価方法は演習と変わらない。報告や卒業論文などによって総合的に判断する。

【令和5年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

卒業論文の条件

- ・担当教員に論文の質が判断できる分野であること
- ・実証分析か理論分析のどちらか（または両方）であること
- ・明確な問いと答えがあること
- ・学術的な貢献が述べられていること

ナンバリングコード B4STT-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313710) 演習 (横山) Seminar 経済現象に関する統計的分析	科目区分 必修科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学等	
	履修推奨科目	経済学科の科目全般	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 統計的な手法を用いて日本経済を分析することを目的とする。 教員の指導のもと、教科書の輪読やコンピュータの利用を通して経済の分析や解釈について学習していく。授業ではツールとしてコンピュータを用いて画面をプロジェクターに投影し解説することもある。同じく学生にもそうしたツールを用いることができるようにしたい。			
授業の目的 経済統計の知識を醸成するとともに、計算機を用いた分析に関しても習得する。最終的には次年度に卒業論文を作成するわけであるが、その作成に必要な基礎的学習と、基礎的な文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経済のしくみについて理解できるようになる。 プレゼンテーション能力を培う。 計算機リテラシーの能力を養成する。 個別演習へのテーマを設定ができる。 必要な議論を行うことができる。			
成績評価の方法と基準 出席および普段の学習態度による。 無断欠席に関しては単位を認定しない可能性がある。 各学生には担当部分に関して課題を与えるので、それに関して誠実に取り組むことが要求される。 出席および普段の学習態度による。無断欠席に関しては単位を認定しない可能性がある。注意すること。 なお、前年度急病になったという理由でメールのみでの欠席を行ったものがいたので、今後は病気の検証を行い、2回以上同様のことを行った場合には単位は出さない。また、交通事情における遅刻・欠席も公的な理由でない限り同様である。また、演習の間は、スマホ等は使用しないこと。守らない場合には成績評価程度ではなく、単位として認定しない可能性がある。 最終的に学習態度に問題があると感じた学生には、試験を行う可能性がある。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
・選考基準 経済分析に興味があり、課題に積極的に取り組む学生を希望する。Excelなど表計算ソフト程度は使えることが望ましい。 また協調性を持ち、グループワークが可能なもの。 責任を持って課題に取り組めるもの。 ・授業計画並びに授業および学習の方法 演習を行ううえで、 ①政府刊行書など経済の解説書を輪読 ②実際のデータを用いた分析（表計算ソフトまたはRなどを利用） という二つの側面から検証することで、日本経済を統計的側面から分析することを目的としたい。ただし、学生によっては二つの側面のいずれかに興味が偏りがちであり、必ずしもバランス良く両方をこなすことができないかもしれない。最終的にどのような程度上の2点を混ぜ合わせるかは演習に参加しようとする学生の総意を持って決めることとしたい。協議して決めた教科書は早急に購入すること。 なお、演習参加者が少数の場合には①②以外の側面も含め学生と相談して決めることにしたい。また、授業形態は基本対面で行う。			

教科書・参考書等

可能であれば、演習参加者と協議して決めたい。

そうした意味で未定ではあるが、統計的な観点に基づく経済分析の本を予定している。①であれば『経済財政白書』などの政府刊行書、②であれば、データ分析について説明した本を予定している。特に今年はExcel関連ではなくR関連の本を予定している。

授業の進行に伴い、適時指示する。

オフィスアワー 授業の時間以外にも必要に応じて質問相談等を受ける用意がある。具体的時間に関しては第1回目の演習時において示すことにしたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・令和4年度個別演習選考基準

演習で行った程度の基礎知識を有し、個別演習においても真剣に取り組むと確約できる学生であれば受け入れると言いたいところであるが、無断欠席、怪しげな急病や交通事情を理由にして欠席したものは受け入れない。

・平成32年度個別演習単位認定方法

課題をこなし、定期的に報告を行うこと、評価は個別演習での学習態度を勘案する。評価方法は基本的に演習と同様である。

・平成32年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文等の作成時に別途に指示を与える予定ではあるが、個別演習において行ったことをA4サイズで20枚以上にまとめることを基本とする。最終的に他の受講生を含めた中で発表を行い、その優劣を含め評価する。

ナンバリングコード B4BSN-cbeE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323766) 演習 (渡邊) Seminar 演習 (渡邊)	科目区分 必修科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 ゼミ90分×30回+自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 本演習では、流通・マーケティング論を基礎として地域や企業が抱えている課題や隠れた資源に焦点を当てて、研究・調査・発表を行っていく。 具体的には、現在調整中であるが企業、他大学ゼミと合同で商品企画コンペに参加予定である。地域や地域企業の資源等をいかに活用し地域活性化や商品・商品販促企画を図っていくかや、いかに魅力を伝えていくかといった調査・分析・発表をグループワークを通して行い、流通・マーケティング論を深く理解していく。			
授業の目的 個別演習・卒業論文に向けた準備段階として、流通・マーケティング論を基礎とした地域商業によるまちづくり活動や地域資源を活用した地域活性化について専門的な知識と調査方法、研究遂行や論文執筆に必要な基本的なスキルを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・流通・マーケティング論に関する応用的な知識を述べることができる。 ・地域が抱えている課題について分析することができる。 ・基本的な研究能力の身につけることができる。 			
成績評価の方法と基準 発表資料と発表内容20% グループワークへの貢献度60% 演習自体への積極的参加度20%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【選考基準】 面接によって選考する。 選考基準は、以下の4つを重視する ①ひとがら ②熱意 ③個性 ④これまでの大学生生活活動 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 4～6月までは、それぞれの研究課題・調査・発表能力をレベルアップさせる。 6月以降は、現在調整中であるが企業、他大学ゼミと合同で商品企画コンペに参加予定である。まずは地域や企業の資源調査や顧客理解などを行ってコンセプトを立案し、その妥当性を検証的調査を行って検証し、企画書・発表資料などを作成していく。10月には中間発表を行い、12月に最終発表をコンペ(他大学ゼミ含む)の形で行う予定である。 なお、中間発表、最終発表は県外で行われる予定であり、それに参加できることが必須となる。 なお別途夏に周辺国立大学経済学部のゼミと交流を図り、研究発表大会も行う予定である。 なお、この科目は基本的に対面授業で行い、一部の授業回では遠隔授業でも行う。 【自学自習のためのアドバイス】 ゼミ以外での時間でもフィールド調査や発表資料作成などのグループワークを行ってもらおう。また発表大会の参加なども行うものであり、適宜自学自習の時間を使うこと。			
教科書・参考書等 西川英彦・廣田章光編著(2012)『1からの商品企画』碩学舎			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

できる限り4月に行われるゼミ説明会に参加し、ゼミ概要を聞き理解した上で応募してください。演習の内容上、講義時間外での活動が多くなります。バイト・サークル等は基本的に不参加の正当な理由にはなりませんので、注意しておいてください。

なお、令和5年度個別演習（渡邊）及び卒業論文については下記のように設定する予定である。

【選考基準】

- ・演習の取り組み状況、研究計画書により選考する。

【個別演習の単位認定方法】

- ・研究の進捗状況、出席状況、討議への参加などにより総合的に判断する。

【卒業論文の作成要領と単位認定方針】

- ・流通論に関連した研究テーマが選択されていること
- ・先行研究をふまえたうえで書かれていること
- ・所定の書式に従って作成されていること（書式については別途指示をおこなう）
- ・研究倫理に十分な配慮・対応をしていること
- ・分量は20,000字以上であること